



水・緑・風が輝く
豊かな暮らしと産業で
飛躍するまち"香南市"

第2次香南市振興計画前期基本計画 実施状況報告書

(計画期間：平成29年度～令和3年度)

令和2年9月

香 南 市

～ 目 次 ～

1. 実施状況報告書について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 「まちづくり指標」による施策の評価について・・・・・・・・	1
3. 振興計画の体系と評価の対象について・・・・・・・・	2
4. 前期基本計画の施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・	3
5. 施策評価シートの見方・・・・・・・・・・・・・・・・	6
第1章 協働のまちづくり（3施策）・・・・・・・・	7
第2章 産業振興（7施策）・・・・・・・・	10
第3章 人生支援（5施策）・・・・・・・・	22
第4章 都市基盤（3施策）・・・・・・・・	31
第5章 教育文化（8施策）・・・・・・・・	34
第6章 防 災（4施策）・・・・・・・・	46

1. 実施状況報告書について

第2次香南市振興計画は、香南市のあるべき姿とそれを実現するための考え方や方向を示した計画であり、平成29年度から令和8年度までの10年間にわたるまちづくりの基本的な指針となるものです。

また、10年間の計画期間のうち、令和3年度までの5年間の計画期間とした前期基本計画を策定し、各施策の効果的な推進を図っています。

この「実施状況報告書」は、令和元年度の1年間の取り組みをまとめたものです。

【振興計画の構成と期間】

年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)
基本構想	10年									
基本計画	【前期】5年					【後期】5年				

2. 「まちづくり指標」による施策の評価について

前期基本計画では、施策の進捗状況および成果を把握するため、それぞれの基本施策に対して「現状の数値」と「目指す目標値」を示した、「まちづくり指標」を設定しています。

【まちづくり指標のねらい】

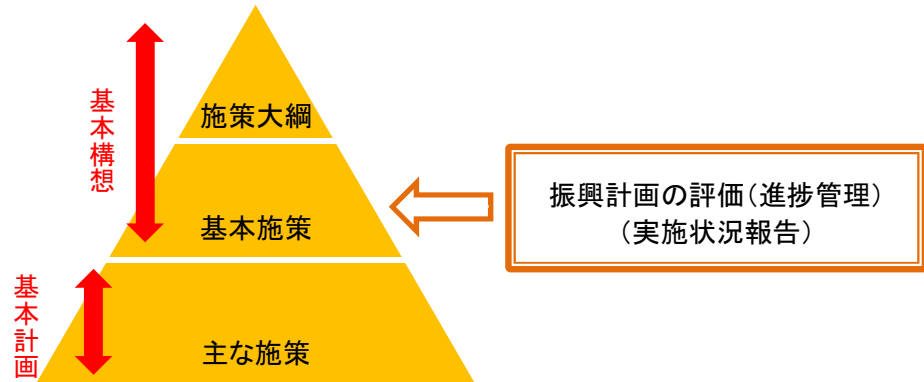
ねらい

- 効率的に計画を進める
まちづくり指標の数値目標については、Plan（計画）－Do（実施）－Check（評価）－Action（改善行動）の視点により、施策の評価・改善を図るとともに、成果を確認していき、効率的に計画を進めます。
- 成果を確認し、施策の評価を行う。
取り組んだ成果を確認し、基本計画の総合的な評価を行います。

また、基本施策の評価にあたっては「まちづくり指標」の評価とあわせて、「基本施策を構成するその他のまちづくり指標」の評価を勘案し、「成果と課題」を明らかにした上で、総合的に評価を行います。

3. 振興計画の体系と評価の対象について

第2次香南市振興計画前期基本計画では、将来都市像を「水・緑・風が輝く 豊かな暮らしと産業で 飛躍するまち“香南市”」と定めています。この将来都市像を実現するために6つの施策大綱を掲げ、大綱の下には30の基本施策、128の主な施策を位置づけ、振興計画の体系を構築しています。



施策評価の対象は、第2次香南市振興計画の基本施策（30 施策）とします。

基本施策 30施策

施策大綱	通しNo	基本施策	通しNo	主な施策		
第一章 協働のまちづくり	1	協働のまちづくりの推進	1	住民との情報交換の推進		
	2	健全な行財政の運営	2	地域活動の推進		
			3	行財政健全化の推進		
	3	人権尊重のまちづくりの推進	4	広域行政の推進		
			5	人権に関する意識啓発の推進		
	第二章 産業振興	4	農業の振興	6	多文化共生の推進	
7				農業生産基盤の充実		
8				防災への対策		
9				担い手対策の促進		
10				農産物のブランド化の推進と加工品の開発		
11				消費者の安心安全志向への対応		
12				農地の保全と活用の促進		
13				有害鳥獣被害対策		
14				林業生産基盤の充実		
15				森林の多面的な利活用の促進		
5		林業の振興	16	森林の活用		
			17	水産機能施設の整備		
			6	水産業の振興	18	漁港施設の整備
					19	新規漁業就業者の育成・支援
					20	漁場の保全
					21	漁業者の所得向上
					22	観光漁業の推進
					23	水産加工品流通販売の推進
24		企業誘致の促進				
7		商工業の振興	25	既存企業の育成・支援		
			26	魅力のある商業地・商店街づくり		
			27	空き店舗の活用		
			28	新規企業の育成・支援		
			29	新たな観光拠点の整備		

4. 前期基本計画の施策体系

施策大綱		通しNo.	30の基本施策	通しNo.	128の主な施策
第一章	協働のまちづくり	1	協働のまちづくりの推進	1	住民との情報交換の推進
				2	地域活動の推進
		2	健全な行財政の運営	3	行財政健全化の推進
				4	広域行政の推進
		3	人権尊重のまちづくりの推進	5	人権に関する意識啓発の推進
				6	多文化共生の推進
第二章	産業振興	4	農業の振興	7	農業生産基盤の充実
				8	防災への対策
				9	担い手対策の促進
				10	農産物のブランド化の推進と加工品の開発
				11	消費者の安心安全志向への対応
				12	農地の保全と活用の促進
				13	有害鳥獣被害対策
		5	林業の振興	14	林業生産基盤の充実
				15	森林の多面的な利活用の促進
				16	森林の活用
		6	水産業の振興	17	水産機能施設の整備
				18	漁港施設の整備
				19	新規漁業就業者の育成・支援
				20	漁場の保全
				21	漁業者の所得向上
				22	観光漁業の推進
				23	水産加工品流通販売の推進
		7	商工業の振興	24	企業誘致の促進
				25	既存企業の育成・支援
				26	魅力のある商業地・商店街づくり
				27	空き店舗の活用
				28	新規企業の育成・支援
		8	観光の振興	29	新たな観光拠点の整備
				30	観光拠点の強化
				31	歴史を中心とした博覧会の開催
				32	観光施設間の連携
				33	地域に親しむ観光の促進
				34	物部川地域3市での観光振興
				35	活性化に向けたあらゆる産業との連携の強化
				36	おもてなしの向上
				37	外国人観光客の受け入れ体制づくり
		9	住宅関連産業の振興及び定住環境の充実	38	住環境の整備
				39	市営住宅の整備
				40	南海トラフ地震への備え
				41	老朽化した住宅等の除去
				42	移住者向け住宅の確保と促進
		10	分野を超えた連携	43	6次産業化による地産地消・外商の推進
				44	観光クラスターの整備
				45	産業人材の育成・確保

施策大綱		通しNo.	30の基本施策	通しNo.	128の主な施策
第三章	人生支援	11	幼年期の支援の推進	46	妊産婦の安心で安全な環境づくりの推進
				47	親と子の心と体の健康づくり
				48	子どもと子育て家庭に優しい環境づくり
				49	質の高い保育・教育の推進
				50	すべての子どもの成長を保障する環境づくり
		12	就学期の支援の推進	51	豊かな人間形成を育む環境づくり
				52	子ども・親・家庭に優しい環境づくり
				53	親と子の心と体の健康づくり
				54	学校と地域の連携による教育環境づくり
				55	すべての子どもの成長を保障する環境づくり
		13	成年期の支援の推進	56	いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進
				57	出会い・新しい家庭づくり支援の推進
				58	親と子ども・働く環境との両立支援の推進
				59	生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援
				60	配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援
				61	移住者ウエルカム支援の推進
		14	熟年期の支援の推進	62	いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進
				63	生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援
				64	配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援
15	高齢期の支援の推進	65	健康で長生きできる環境づくりの推進		
		66	世代間交流を楽しみ生活文化の伝承ができる地域社会づくりの推進		
		67	親・子・孫で支える地域社会づくりの推進		
		68	配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援		
		69	地域で支えあいがあり、香南市に住んで良かったと思える環境づくりの推進		
第四章	都市基盤	16	公園・緑地と景観形成、環境保全の整備	70	自然的土地利用と都市的土地利用の推進
				71	緑豊かな都市空間の創出
		17	水資源等活用保全の推進	72	治水・利水整備の促進
				73	生活関連水の処理の整備
		18	交通網体系の整備	74	道路網の整備
75	公共交通の充実				
第五章	教育文化	19	保幼小中連携の推進	76	保幼小中連携（一貫）教育の推進
		20	家庭や地域と連携した教育の推進（チーム学校の取組）	77	厳しい環境にある子どもたちへの支援
				78	学校の組織マネジメント力の強化
				79	不登校の改善
				80	子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築
				81	家庭の教育力の向上
				82	放課後の子どもの生活・学習支援の充実
		21	これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進	83	就学前教育の充実
				84	確かな学力の育成
85	豊かな心の育成				
				86	キャリア教育の推進

施策大綱		通しNo.	30の基本施策	通しNo.	128の主な施策		
第五章	教育文化	21	これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進	87	人権教育の推進		
				88	健やかな体の育成と健康の増進		
				89	特別支援教育の推進		
		22	きめ細かな教育の推進	90	教職員の専門性・指導力の向上		
				91	保育所・学校運営の充実		
				92	生徒指導の充実		
				93	教育相談・支援体制の充実		
		23	安全な教育環境での教育の推進	94	防災教育等の推進		
				95	保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備		
		24	生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり	96	ライフステージに対応した学習の充実 (家庭教育・学校教育・社会教育)		
				97	生きがいを得る学習機会の充実		
				98	現代的課題に対応した学習機会の充実		
				99	学習施設の整備		
				100	地域に密着した学習の場の提供		
				101	生涯学習推進組織の整備		
				102	情報提供・相談機能の強化		
				103	指導者の育成・人材活用		
				104	生涯学習を通じての地域づくり		
				105	全ての人と共生する生涯学習の推進		
		25	文化の継承と振興	106	芸術・文化活動の推進		
				107	郷土の歴史・文化遺産の保存と継承		
		26	生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興	108	生涯スポーツ・競技スポーツの推進		
				109	スポーツ環境の充実		
				110	スポーツ指導員の育成・人材活用		
		第六章	防災	27	災害に強いまちづくりの推進	111	津波・高潮の被害軽減対策
						112	水害・土砂災害予防対策
						113	地震動に強いまちづくり
						114	孤立化防止対策の推進
115	ライフラインの安全対策の強化						
28	地域防災力の育成			116	防災知識の普及		
				117	自主防災体制の整備		
				118	災害時要配慮者の支援対策		
				119	ボランティアの環境整備		
29	防災体制の強化			120	応急活動体制の整備		
				121	情報通信システムの強化		
				122	火災予防対策の推進		
				123	災害時医療救護体制の整備		
				124	緊急輸送体制の整備		
30	市民生活の確保			125	避難対策の推進		
				126	食料・飲料水・生活必需品の確保		
				127	保健衛生・防疫体制の確保		
				128	ごみ・がれき、し尿の処理体制の確保		

5. 施策評価シートの見方

第2次香南市振興計画 基本施策評価シート(令和〇〇年度)											シートNo.	
施策大綱名											} ← 第2次振興計画前期基本計画の体系です。	
基本施策名	評価対象となる基本施策(取組)です。											
① 施策の基本目標												
第2次振興計画前期基本計画に掲げている基本施策の基本目標です。												
② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標												
体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との比較	達成状況 (R3に評価)
	第2次振興計画前期基本計画に掲げている施策の基本目標の成果等を測定するための指標(まちづくり指標)です。施策により、指標数は異なります。		目標	第2次振興計画前期基本計画に掲げている施策のまちづくり指標の計画策定時の当初値と目標値、計画期間中の実績値です。							目標との比較です。	まちづくり指標の達成状況です。R3年度に評価します。
		実績										
		目標										
		実績										
↑ 矢印(→)で評価します。												
③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」												
体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との比較	達成状況 (R3に評価)
	施策の基本目標を構成する、その他の指標について記載しています。		目標									
		実績										
		目標										
		実績										
			目標									
			実績									
④ 128の施策ごとの「成果と課題」												
No. 施策名称												
まちづくり指標による定量的な評価等を踏まえ、上記施策に対しての成果と課題等を記載しています。												
No. 施策名称												
⑤ 基本施策の「総合的評価」												
評価結果						評価所見						
上記の成果と課題を踏まえ、多角的な分析等で右記の3段階評価をしています。						《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない						
評価結果の所見を記載しています。												

施策大綱名	第1章 協働のまちづくり
基本施策名	1. 協働のまちづくりの推進

①施策の基本目標

まちづくりにおいて、市民と行政と一緒に考え、取り組むための体制づくりを推進し、市民との情報共有を図り、各地域との懇談会など、市民と行政のコミュニケーションを図ります。
 多様化する生活課題に密着した地域活動が行えるよう、自治会や協議会等の活動支援に努めます。
 また、香南市まちづくり評議会を開催し、市民と行政が「協働」で地域課題を解決する仕組みづくりに取り組めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
2	自治会組織の結成率	%	目標		89.0	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	81.0	86.0	90.0	90.0	91.0				
2	協議会の結成率	%	目標		63.0	68.0	73.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
1	地区懇談会の開催回数(種類)	回	目標		1	1	2	2	2	2	→	
			実績	1	1	1	2	2				
1	地区懇談会の参加者数(延)	人	目標		350	355	360	360	360	360	↘	
			実績	348	325	263	293	164				
2	協議会組織の設立数	組織(累)	目標		12	13	14	19	19	19	↘	
			実績	10	10	10	10	10				
2	自治会組織の設立数	組織(累)	目標		87	93	95	95	95	95	↘	
			実績	79	83	86	85	86				
2	集落活動センター設置数	箇所(累)	目標		1	2	2	2	2	2	↘	
			実績	1	1	1	1	1				
2	地域活動団体の育成数	団体	目標		3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	2	2	0	0	0				

④128の施策ごとの「成果と課題」

1 住民との情報交換の推進	<p>市が進める重点施策及び教育分野における重点取組などについて説明し、地域のことや行政全般に関して参加者の皆さんと意見交換を行う地区別懇談会を本年度も実施した。</p> <p>「日程が合わない」「説明が長く意見交換の時間が短い」などの課題を受けて、これまで市内18カ所で開催していた地区懇談会の開催方法を平成30年度から見直し、本年度も行政主体(地区懇談会)と地域主体(ふらっと座談会)の2種類で実施した。</p> <p>行政主体の地区別懇談会については、4月11日～17日にかけて5町5ヶ所で開催し、市民101人の参加があった。地域主体のふらっと座談会については、7月11日～10月1日にかけて要望のあった4カ所の自治会(手結山まちづくり自治会14人、つきみ野・宮の瀬地区まちづくり自治会13人、北部地区まちづくり自治会16人)・協議会(夜須町まちづくり協議会20人)で開催し、63人の参加があった。</p>
2 地域活動の推進	<p>市内全域での自治会・協議会の設立を目指し取り組んでおり、10協議会、86自治会が設立済み(令和元年度末)である。</p> <p>自治会は、全部で95組織を目標としているが、本年度は横井・八丁地まちづくり自治会が設立され86組織となったが、目標には至っていない。協議会においては、平成27年度から新たな設立には至っていないので、引き続き、組織の設立を最優先に取り組んでいきたい。また、新規の設立支援だけでなく既存組織への支援を行っていくことも重要である。</p> <p>集落活動センターの設置については、岸本地区で集落活動センター設立を目指す準備会を立ち上げ活動を行った。令和2年6月のセンター設置を目指している。</p> <p>地域活動の推進について、団体の育成に向けた取組は行っているが、補助金を活用する団体はなかった。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
C	<p>協議会、自治会の結成については、地元の理解が不可欠であり、目標達成するよう、引き続き地域に出向き、組織の必要性を説明し結成に向けて働きかける。</p> <p>また、地区懇談会については、課題を受けて内容の充実(見直し)を行い、行政主体の懇談会と行政が出向いての地域主催の懇談会を開催したが、参加者の増加にはあまり繋がらなかった。来年度は、地域主体の懇談会の見直しを行い、一層住民との情報交換が図れる機会の提供に努めていく。</p>

施策大綱名	第1章 協働のまちづくり
基本施策名	2. 健全な行財政の運営

①施策の基本目標

自立した財政基盤の確立をめざし、安定した健全な財政運営を行うため、中長期的な見通しを立て、事業の重点化を図りながら、諸施策を進めます。
 行政改革の着実な推進、職員の政策立案能力などの資質向上を図るとともに、行政事務の効率化や情報化を含め、市民サービスの一層の向上と信頼される行政組織づくりに努めます。
 また、まちづくりをより効果的に推進するために、関係市町村との調整を行い、広域的な施策を推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
3	実質公債費比率	%	目標	/	11.7	11.8	11.0	10.5	10.8	12.0	↗	
			実績	11.1	10.0	8.7	7.0	5.3				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
4	広域行政の運営	組合	目標	/	5	5	5	5	5	5	→	
			実績	5	5	5	5	5				
4	大学との連携事業 (学生参加人数)	人	目標	/	150	150	150	150	-	-	-	
			実績	168	373	240	118	-				

④128の施策ごとの「成果と課題」

3 行財政健全化の推進	<p>令和元年度の比率(平成29年度～令和元年度の3年平均値)は、5.3%で、平成30年度に比べ、1.7%減少した。主な要因は、合併前にそれぞれの旧町村で実施した普通建設事業に係る地方債の償還のピークが過ぎたことや合併後に実施した繰上償還の効果などである。</p> <p>* 実質公債費率・・・自治体の借入金(地方債)の返済額の大きさを、当該自治体の財政規模に対する割合(3カ年の平均値)で表したもので、その数値が低いほど財政状況は良好とされ、18%以上になると、地方債の発行に国・都道府県の許可が必要になる。</p>
4 広域行政の推進	<p>一部事務組合、広域連合や広域市町村圏などにおいて運営している広域行政については、関係市町村などの調整を調整を行い、効果的・効率的に業務を行った。(香南斎場・香南香美衛生組合・南国香美香南租税債権管理機構・香南清掃組合・香南香美老人ホーム)</p> <p>また、平成27年度から高知大学地域協働学部と連携し、西川地区集落活動センターでの活動を通じた学びの場の提供を行ってきた。平成30年度連携事業期間が終了となったが、連携期間中は多くの学生が、学びの場として参加し地域との協働が図れた。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>A</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>中期財政計画などに基づき、計画的な行財政運営を行ってきた成果がでているが、今後は普通交付税の合併特例措置の終了を見据えた、歳入に見合った歳出構造の確立に取り組んでいく必要がある。</p>

施策大綱名	第1章 協働のまちづくり
基本施策名	3. 人権尊重のまちづくりの推進

①施策の基本目標

市民に人権尊重の理念を広げるため、「香南市人権教育・啓発推進基本計画」・「男女共同参画基本計画」に基づき、人権尊重のまちづくりを推進していきます。
 また、人権啓発フェスティバル等のイベントや施策を関係各課が実施し、市民及び市人権教育研究協議会などと連携を図りながら、学校・職場・地域社会などの場を通して、効果的な教育・啓発活動を進めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
5	人権講演会への参加者数 (3講演会)	人	目標		700	710	720	730	740	750	↘	
			実績	692	420	845	644	665				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
5	人権教育・啓発推進講座修了率(市職員対象)	%	目標		89.0	90.0	91.0	92.0	93.0	93.0	-	
			実績	88.0	92.6	92.4	91.8					
5	人権教育・啓発推進講座修了率(市職員対象)	%	目標					65.0	68.0	70.0	↗	
			実績					66.7				
5	企業などに対する研修会の実施回数	回	目標		2	2	2	2	2	2	↘	
			実績	2	2	2	2	1				
6	ALTや外国人とのイベント回数	回	目標		3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	5	2	3	1	0				

④128の施策ごとの「成果と課題」

5	人権に関する意識啓発の推進	<p>人権講演会への参加者数については、3講演会の参加者を指標としている。「部落差別をなくする運動」強調旬間(250人)、いきいきセミナー(315人)、人権フェスティバル(100人)の参加者があったが、人権フェスティバルの参加者が例年に比べて少なく、目標参加者数を下回った。本年度の人権フェスティバルではマンネリ化を防ぐよう内容に変化をつけ、講演会の実施と合わせ、映画「四万十～いのちの仕舞い～」の上映を行ったが参加者が伸びなかった。市職員対象の人権教育・啓発推進講座終了率については、本年度より受講対象者や課題の設定を見直したため新たな目標値を設定し、人権教育・啓発推進講座を実施した。</p> <p>また、香南市企業等人権問題連絡協議会で情報通信の発行に取り組みとともに、総会後の研修会を含む自主研修会を2回実施していたが本年度は総会後の研修会1回のみ開催となった。研修は市内の企業や団体等を対象に、障害者雇用の現状や障害がある方が地域で暮らしていく上での社会的障壁の解消、合理的配慮の提供等について学習し、障害のある方と地域をつなぐ企業や団体の役割等について意見交換し理解を深めた。</p>
6	多文化共生の推進	<p>国際理解を深める教育・啓発を推進するために、ALTや外国人とのイベントを実施している。</p> <p>外国人とのイベント交流として、年間3回を予定しているが、本年度は開催ができていない。来年度以降は、多文化を学ぶ学習会の機会を計画し実施していく。</p> <p>また、ALTとの交流については、イベントの開催はできなかったが、各学校での外国語指導や児童生徒との交流は図られている。</p> <p>学校においては、各小中学校に週に1～5日ALTを配置し、勉強や遊びを通じて国際理解を深めている。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
C	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p> <p>人権教育・啓発推進講座(市職員対象)の参加者数は、計画通り取り組んでいるが、人権講演会への参加者が大きく減少している。特に人権フェスティバルの参加者数が減少しているが、内容に変化をつけ実施したが参加者が少ない。広報や呼びかけを一層見直す必要がある。</p> <p>研修会やイベントの開催数は、目標回数を開催できることが継続した啓発活動を行うことにつながるので、目標回数を開催できていないことは反省すべき点である。目標回数の企画とマンネリ化を防ぐよう内容にも変化をつける等、参加者が関心をもって人権学習ができるように努める。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	4. 農業の振興

①施策の基本目標

農業の振興を図るため、農産物の品質を高め、生産量の増加及び農業者の所得向上をめざし、基盤整備の強化を図ります。また、新たな担い手の確保と地域の中核となる農業者等の育成や中山間資源を活かした商品開発、販路拡大の支援、集落営農の推進に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
9	新規就農者数 (59人は平成29年度からの累計) (上段:累計、下段:単年)	人	目標		10	12 (12)	24 (12)	39 (15)	49 (10)	59 (10)	↘	
			実績	17	14	7 (7)	16 (9)	25 (9)				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
7	農業基盤整備の整備率 (H28・29 農業基盤整備促進事業) (H30 農地耕作条件改善事業)	%	目標		30.0	40.0	14.0	14.0	60.0	100.0	↗	
			実績	21.9	30.2	30.2	14.6	23.0				
8	重油流出防止タンクの設置 (タンク・防油堤)	基	目標		27	30	30	30	20	20	↘	
			実績	18	21	17	19	9				
9	施設園芸ハウス整備面積	㎡	目標		15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	↗	
			実績	5,592	14,879	20,661	23,132	17,212				
9	環境制御技術導入農家数	件	目標		30	30	30	30	25	25	↘	
			実績	34	33	27	43	16				
10	エメラルドメロン販売額	百万円	目標		412	425	437	450	450	450	↗	
			実績	406	407	428	447	517				
10	ニラ販売額	百万円	目標		1,165	1,230	1,295	1,360	1,360	1,360	↘	
			実績	1,100	1,399	1,029	995	1,002				
11	学校給食への市内産野菜(主 要品目)の使用率	%	目標		37.0	37.0	38.0	39.0	39.0	39.0	↘	
			実績	36.0	31.0	30.0	36.0	34.0				
11	市内施設への供給先の確保 (米)	箇所 (累)	目標		0	0	0	1	1	1	↘	
			実績	0	0	0	0					
12	中山間地域での協定の締結 数	協定 (累)	目標		11	13	13	13	13	13	↘	
			実績	8	11	11	11					
13	有害鳥獣捕獲数	頭羽	目標		614	500	500	500	500	500	↗	
			実績	566	598	742	620	657				
13	有害鳥獣被害防止柵の設置 距離	m	目標		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	↘	
			実績	8,340	7,539	9,026	9,666	7,378				

④128の施策ごとの「成果と課題」

7 農業生産基盤の充実	農業基盤整備促進事業を活用し、老朽化した頭首工他の整備(農業生産基盤の充実)を実施してきたが、平成28年度から事業未採択で事業の実施ができていなかった。平成30年度から農地耕作条件改善事業を活用して事業の再開を行い、本年度は門田堰の袋体制作・設置工事完成及び東佐古用排水路の改修工事完成の2ヶ所の整備を行った。整備率は目標値と実績値は事業計画の費用で算出しており、予定通りに事業実施できた。引き続き、予算要望を行い、早期事業実施に向けて取り組んでいく。
8 防災への対策	重油流出防止タンクの設置により、タンクと防油堤が単独に施行できるようになり、防災への対策が図りやすくなっている。 設置にあたっては、JA高知県香美地区主催の説明会に参加して当事業についての説明を行い、積極的に周知を図ったが、資金面に関して個人負担が一定必要となることから、令和元年度も目標値には届かなかった。平常時の燃料漏れ対策や南海地震に備えるためにも、事業のPRを推進していく。
9 担い手対策の促進	新規就農者として、Uターン5人、Iターン4人の9人が営農を開始した。令和元年度はこれまでの取組の継続と農業人フェアや高知暮らしフェアなどの新規就農に向けたイベント等に参加し、就農支援等について周知を図り、就農相談は23件あったが、国の制度変更により補助金の対象年齢の引き上げや、就農後の園芸用ハウスの建設費用が高額であるなどの説明により、就農を安易に考えている方などが就農まで結びつかず数値目標の達成には至らなかった。引き続き新規就農者獲得に向け就農支援等について周知を図る。 施設園芸ハウスの整備面積は目標値を上回る整備(17,212㎡:中古ハウス5件、新規ハウス5件)が図れ、環境制御技術導入農家数は数値目標の達成には至らなかった。平成26年度から5年間の期限付き事業のため、平成30年度が最終年度であったが、引き続き継続することとなり、事業を周知し一層の利用増加を図る。

<p>10 農産物のブランド化の推進と加工品の開発</p> <p>農産物のエメラルドメロン、ニラについては高知県産業振興計画地域アクションプランに位置づけられブランド化を図ってきたが、エメラルドメロンについては一定ブランド化されたことにより第3期高知県産業振興計画地域アクションプランから未掲載となった。ニラについては継続して位置づけられており、販売額においても、エメラルドメロン、ニラ共に前年度より販売額も上昇し、エメラルドメロンについては目標額を達成できた。今後も農業者やJA高知県香美地区と連携し、一層の販売促進を図っていく。</p>
<p>11 消費者の安心安全志向への対応</p> <p>安全な食べ物を安心して食べられるために、地域で生産されたものを地域の人たちが消費する「地産地消」の取組として、学校給食で市内産野菜(主要品目)を使用していくよう取り組んでいる。使用率は約34%と目標には至っていない。本年度は4月よりにんじんの供給を開始し、今後さらに新たに使用できる品目の計画を立て、学校給食への供給を推進する。また品質及び納品量の安定的な確保、気候に対応した栽培計画及び品質の選定・研究を行い、安心安全な農作物づくりに取り組む。 米の市内公共施設への供給については、平成30年9月から野市保育所に供給を開始している。</p>
<p>12 農地の保全と活用の促進</p> <p>農業生産条件が不利な地域においても農地の保全と活用が促進できるよう、中山間地域等直接支払事業を活用して事業に取り組んでいる。本年度は4期対策最終年度となるため組織数・面積・農家数の維持を図り、協定数は増えていないが、対象面積は増加させることができた。</p>
<p>13 有害鳥獣被害対策</p> <p>有害鳥獣の捕獲数は総数では目標を大きく上回っている。内訳を見るとイノシシ・シカ等獣類の駆除が多く、カラス等鳥類についての駆除が少ない。今後の取組として、被害対策協議会等各地区の狩猟代表者が集まる場において、鳥類駆除への協力を要請し、捕獲数増加をめざしていく。 また、被害防止として防止柵を設置しており、農業者から有害鳥獣被害に対する被害の相談があった際に制度の説明及び活用を勧め、事業の活用につなげ目標10,000mに対し、7,378mを設置した。今後も、広報等において本事業の周知を図っていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>担い手対策の事業や生産基盤の整備など、新規就農者確保の取組は積極的に取組んできたが、十分な成果は得られなかった。 農産物(ニラ・エメラルドメロン)のブランド化は図れているので、引き続き生産量の増加や農業者の所得向上を一層めざしていく。 有害鳥獣対策として有害鳥獣の捕獲数については目標を大きく上回っている。また、防護柵の設置は、目標距離の達成には至っていないが、例年以上の整備ができた。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	5. 林業の振興

①施策の基本目標

林道・作業道の維持管理と適切な整備に努めるとともに、森林のもつ公益的機能の維持増進や、森林の集約化と経営委任の推進を図ります。
 また、公共事業や公共施設での県産材の使用促進、木質バイオマス エネルギーの利用促進と多面的利用の拡大を図り、林業従事者の育成にも努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系 No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との比較	達成状況 (R3に評価)
15	森林経営計画の作成面積	ha (累)	目標	/	200	100 (300)	100 (400)	150 (550)	150 (700)	150 (850)	↘	
			実績	100	84.4 (184.4)	98.3 (282.7)	22.7 (305.4)	0 (305.4)	() ()			
15	作業道の整備距離	m (累)	目標	/	2,000 (3,880)	2,620 (6,500)	3,500 (10,000)	2,500 (12,500)	2,500 (15,000)	2,500 (17,500)	↘	
			実績	1,880	2,802 (4,682)	1,247 (5,929)	990 (6,919)	152 (7,071)	() ()			
15	搬出・切捨間伐面積	ha (累)	目標	/	10 (30)	50 (80)	90 (170)	80 (250)	0 (250)	0 (250)	↘	
			実績	20	21 (41)	51.4 (92.4)	42.4 (134.8)	1.1 (135.9)	() ()			

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系 No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との比較	達成状況 (R3に評価)	
14	林道道路側溝の整備距離	m	目標	/	2,500	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	-	
			実績	1,000	2,500	3,380	中止	1,200					
15	森林境界明確化面積	ha (累)	目標	/	100	250	420	600	600	600	↘		
			実績	97.4	97.4	97.4	120.1	146.3					
16	農業ハウス用ペレットボイラー数	基 (累)	目標	/	2	2	2	譲渡	-	-	→		
			実績	2	2	2	2	譲渡					

④128の施策ごとの「成果と課題」

14 林業生産基盤の充実	<p>林業の生産性向上のために林道・作業道の整備は必要不可欠であり、例年林道道路側溝の整備を行っている。 令和元年度は畑山・仲木屋線側溝清掃(2,000m)を予定していたが、損傷した舗装の修繕を優先したため1,200mの実績となり予定には至らなかった。</p>
15 森林の多面的な利活用の促進	<p>森林境界明確化事業において、複数の所有者にまたがる、ひとかたまりの森林の一体的な整備など、計画的・効率的な林業経営を推進している。 令和元年度は明確化対象地を「香我美町撫川地区」に行ったが、所有者の同意が得られない森林があり、26.23haしか事業は実施できなかった。令和2年度は、夜須町仲木屋で森林管理制度に基づき、意向調査を実施した森林に対して、森林環境譲与税を活用し、市から森林組合への委託事業として実施する。森林経営計画については計画樹立予定エリアの面積が、当初の見込みより少なく、樹立が困難となったため次年度へ繰り越して実施する。 また、作業道の整備についてはH30年7月豪雨で被災した県道222号線の復旧が完了しなかったため、事業箇所を変更し152mの実施となった。搬出・切捨間伐については、切捨間伐では事業実施に伴う地権者からの要望が少なかったため、規模が縮小し1.19ha実施となり、搬出間伐では県道222号線の復旧が完了しなかったため未実施となっている。</p>
16 森林の活用	<p>化石燃料の代替資源として森林資源を活用した木質バイオマスの普及促進に取り組んでいる。ボイラー数の現状維持を目標とし、現在2基が稼動して、問題なく利用できている。機器が耐用年数に達しているため、予定通り利用者2名へ譲渡も完了した。今後もバイオマスボイラーを活用した農業の活用について情報収集を図っていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
C	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p> <p>森林境界明確化事業は香美森林組合と連携して実施している。当組合の事業計画との調整もあり目標通りの規模を実施することは難しい。また、事業実施の際には地権者の同意も必要となり、地権者の把握や調整等にも時間を要している。 事業を実施するうえで、交付金の補助単価が低く、十分な事業費を確保できないという問題があったため、今後は森林環境譲与税を活用し、市が事業主体となり、森林組合への委託事業として実施することで、境界明確化を進めていく。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	6. 水産業の振興

①施策の基本目標

漁港施設・水産機能施設の改修整備・経営基盤の強化を行い、漁業の生産高を伸ばし、漁業収入の向上をめざします。また、地産地消を推進し、香南市ブランドの展開を図ります。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
18	漁港施設の保全、改修整備率	%	目標		23.0	30.0	37.0	43.0	64.0	73.0	↘	
			実績	25.0	19.0	25.0	30.6	36.0				
21	沿岸漁業総生産量	トン	目標		1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	↗	
			実績	1,086	693	839	1,119	1,298				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
17	水産機能施設の整備件数	件 (累)	目標		8	8	10	12	-	-	↗	
			実績	6	11	15	17	20				
19	新規就業者(中核漁業者)の確保	人 (累)	目標		1	2	3	4	4	4	↘	
			実績	1	1	1	1	1				
20	除去地区の海藻類育成被度	%	目標		52.0	58.0	64.0	70.0	70.0	70.0	↘	
			実績	44.0	44.0	52.0	47.0	43.0				
20	掃海事業の実施回数	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	2	1	1	1	1				
21	沿岸漁業生産額	千円	目標		-	-	-	-	285,000	290,000	-	
			実績	-	-	292,770	358,870	314,870				
22	地引網漁業経営体の維持(経営体数)	経営体 (累)	目標		1	1	1	1	1	1	↘	
			実績	1	1 (休業中)	1 (休業中)	1 (休業中)	1 (休業中)				
23	高知県漁協手結支所の販売額	万円	目標		1,500	3,000	3,000	3,000	5,100	5,200	↗	
			実績	2,299	4,058	4,426	6,328	5,371				
23	手結加工場の雇用人数(延)	人 (累)	目標		2	3	3	4	4	4	↘	
			実績	2	2	2	2	2				
23	手結加工場による給食センターへの食材納入回数	回	目標		11	11	11	11	22	23	↗	
			実績	19	22	23	22	22				
23	水産業に関する体験活動の実施	回	目標		2	2	2	2	2	2	→	
			実績	2	2	4	2	2				

④128の施策ごとの「成果と課題」

17 水産機能施設の整備	老朽化に伴う各種漁業用施設の改修、整備として、各支所や地区代表の方など漁業関係者の意見を基に、事業を実施しており、計画策定時には改修等予定していなかった年度においても、改修等の要望があり事業実施に取り組んでいる。 令和元年度においては、3件(吉川統括支所共同作業施設漁具倉庫雨漏補修工事・手結支所バッテリー式フォークリフト更新事業・手結支所冷凍庫風除室設置事業)の施設改修・整備を行い、漁業活動の維持、向上等に取り組んだ。
18 漁業施設の整備	水産物供給基盤機能保全事業により漁港施設の保全工事を実施している。 改修整備率は「実績施設数/計画施設数」で示しており、令和元年度末で計画施設数18施設のうち実績施設数は6.5施設となっている。
19 新規漁業就業者の育成・支援	新規漁業就業者の確保については、複数人で操業する市内漁業形態は1人での就業が難しい状況であり本年度も就業者の確保までは至らなかった。 令和元年度の取組として、平成31年4月から設置された(一社)高知県漁業就業支援センターが実施する研修事業に対する市補助金交付要綱を制定した。センターと一層の連携(水産部会委員へ委嘱)を図り、新規就業者の確保に向けて取り組んでいく。

20 漁場の保全
<p>漁場生産力の回復を図るために、除去地区の海藻類の育成や掃海事業を実施している。 令和元年度の海藻類の育成被度は43%だった。また、食害生物(ウニ)の駆除及び母藻の設置は、豪雨・台風等の天候の関係で調整がつかず未実施となったが、2年間でできていなかった食害生物(魚類)駆除を実施した。引き続き、食害生物のウニ・魚類駆除の実施に努める。 掃海事業は例年どおり1回実施。今後も、継続して実施できるように調整を図っていく。</p>
21 漁業者の所得向上
<p>沿岸漁業総生産量は、県漁協3支所の生産量が、令和元年度は前年比116%の1,298tと目標値を上回る生産量となった。 全体生産額(漁獲高)については、前年比88%で落ちており、単価が低かったことが要因である。 (※平成30年度より吉川漁港漁協水揚げデータに反映されない法人経営の漁獲高を追加)</p>
22 観光漁業の推進
<p>地引き網漁業について、赤岡に1経営体あったが、後継者がいないことから平成28年度より休止の状況になっている。市の観光の中心を担ってきた地引き網の存続に向けた取組を関係機関と行う必要があるが、人員や漁業権の問題もあり、具体的な解決策はまだ見えていない。</p>
23 水産加工品流通販売の推進
<p>高知県漁協手結支所の販売額については前年度より減少したが目標値は大きく上回っている。給食センターへの食材納入回数も目標値を大きく上回っており、また令和2年2月よりシラス(かちりじゃこ)の納入に向けて給食センターへ試験的納入も開始した。 また、水産業に関する学習活動は予定通り2回行い、参加した小学生にとって水産業が身近な存在であることを感じてもらった。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">B</p> <p style="font-size: 0.8em;">《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>漁港施設や水産機能施設の整備に努めており、順調に整備は進んでいるが、新規漁業就業者の確保には至っていない。 沿岸漁業総生産量は目標に達しており、全体生産額(漁獲高)は昨年度より減少したが、近年は増加傾向であり、漁業者の所得向上は図れている。 学校給食への納入や水産業の体験学習も実施しており、令和2年2月よりシラス(かちりじゃこ)の納入に向けて給食センターへ試験的納入も開始した。引き続き地産地消の推進を図る。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	7. 商工業の振興

①施策の基本目標

後継者の育成・市内中核企業等を担う人材確保として、奨学金支援などの施策を展開し、市内企業への就職を促進、市への定着を図ります。
 また、市内企業在職者に対する支援を充実し、必要な知識の習得やスキルアップに努めます。
 地場産業や観光施設との連携により、魅力ある商業地・商店街づくりを促進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
24	新規企業立地件数 (香南工業団地)	件 (累)	目標		3	4	5	5	5	5	→	
			実績	1	3	4	5	5				
24	新規雇用者数 (香南工業団地)	人 (累)	目標		87	120	130	160	160	160	↘	
			実績	2	57	61	71	72				
25	製造品出荷額等	円/年	目標		500億	500億	500億	500億	500億	500億	↘	
			実績	419億	396億	371億	397億	344億				
25	産業人材支援制度利用者数	件 (累)	目標		5	10	15	20	25	30	↘	
			実績	着手	0	1	2	5				
27	空き店舗の新規活用件数	件 (累)	目標		1	1	1	2	2	2	↘	
			実績	0	0	0	1	1				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
25	懇談会の実施回数 (既存企業)	回	目標		2	2	2	2	2	2	→	
			実績	2	2	1	1	2				
25	企業等訪問回数 (各種助成事業の説明)	人	目標		10	10	10	10	10	10	↗	
			実績	13	12	21	12	11				
25	未来人材奨学金支援事業申 請件数	件	目標		5	5	5	5	5	5	↘	
			実績	未策定	0	0	0	0				
26	コミュニティブックへの掲載店 舗数	店	目標		130	130	200	200	200	200	↘	
			実績	130	130	130	175	175				
28	懇談会の実施回数 (新規企業)	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1				

④128の施策ごとの「成果と課題」

24 企業誘致の促進
<p>高知県と連携して香南工業団地の分譲交渉を行い、平成30年度に最終の区画も企業誘致(分譲)ができ、全5区画の企業誘致ができた。令和元年度の取り組みとしては工業団地内の周辺整備や維持管理を行い、今後は新規工業団地の整備に向けて取り組む。 工業団地での新規雇用者については、立地企業と県、市が連携して雇用促進を図っているが、誘致企業の業種や規模の関係もあり総雇用者数が想定していた雇用者数より少なく、目標達成には至っていない。 今後も増産やフル操業を見据えた追加雇用に向けて、県やハローワークと連携して会社説明会・面接会を共同開催するなど雇用支援に努めていく。</p>
25 既存企業の育成・支援
<p>令和元年度の製造品出荷額(令和元年工業統計調査)は、344億円となっている。目標値に対して、68.8%の実績値であった。 産業人材育成事業は利用実績は3件であり、平成30年度に事業が利用しやすいように補助対象事業の拡充を行い、市HPや企業訪問、また懇談会や商工会を通じて事業の周知を行い、昨年度の実績を上回ることが出来たが目標値には達していない。また、平成28年度から既存企業の育成支援を図るために創設した未来人材奨学金支援事業も、創設から利用実績がなく、製造業に限定していた助成対象区分を、市内全事業所への新規就業者及び企業者も対象とするよう拡充し、事業の周知に努めたが、助成対象となる新卒者が少なかったことから利用に至らなかった。次年度はさらに対象要件を拡充し、(40歳未満の中途採用者も対象)利用の促進に取り組む。 行政や企業間の情報交換の場として懇談会(既存企業)を開催しているが、令和元年度は商工会との懇談会(10月10日開催)と、香南市ものづくり会と香我美町立地企業交流会との合同交流会(1月20日開催)を開催し、商工会との意見交換や企業間の交流を深めるとともに、各種支援事業の紹介や香南市第2期産業振興計画の取り組みの説明を行った。また、企業等訪問は9社11回行っており、固定資産税助成事業をはじめ、各種助成事業の説明や、雇用・経営状況、課題等の意見交換を行うことができた。今後も、継続して行うことで企業のニーズに合った事業紹介や支援制度の見直しを行い、雇用の促進と生産性の向上を図っていく。</p>

<p>26 魅力ある商業地・商店街づくり</p> <p>平成23年度に商工会が市内のお店を紹介した「コミュニティガイドブック」を作成したが、その後更新が出来ていないため、更新に向けての協力体制の構築やデータでの作成も検討すべき等の意見が出されており、平成30年度にコミュニティガイドブックvol3を作成し175店舗を掲載している。令和元年度については、コミュニティブックの更新は行っていない。</p> <p>街バルイベント「香南カーニバル」を継続開催し、参加事業者数も48店舗となり、事業者・参加者共に好評であった。来年度も開催し、参加店舗の拡充や実施内容の見直しを行うとともに、SNSや情報誌、ポスター・チラシ等を作成し情報発信を行うことで、魅力ある商業地・商店街を創っていく。</p>
<p>27 空き店舗の活用</p> <p>平成28年度に空き店舗対策事業費補助金交付要綱を制定し、市のホームページへの掲載や市内金融機関を訪問して事業説明を実施している。平成30年度は、サービス業での活用が1件あったが、令和元年度については新規の活用はなく目標値に至らなかった。また、商工会商業部会で「事業継承、空き店舗対策の調査研究にかかる委員会」も継続して開催され、あわせて高知県が推進する事業継承診断の取組も、年間28件の目標に対して、28件の診断を行った。今後は、その28件の事業者への継続的な支援を実施する。商工会のHPIに3件の空き店舗情報を掲載しており継続して周知の拡大を図る。</p>
<p>28 新規企業の育成・支援</p> <p>令和元年度は新たに立地した2企業が香我美町立地企業交流会へ入会。香南市ものづくり会との合同交流会(1月20日開催)では既存企業との交流を深めるとともに、各種支援事業の紹介や香南市第2期産業振興計画の取り組みの説明を行った。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">C</p>	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>香南工業団地への企業誘致は図れたが、雇用者数は目標を下回った。</p> <p>製造品出荷額についても、電子部品の製造品出荷額が大きく減少しており、ルネサスエレクトロニクス高知工場の閉鎖が大きく影響している。新規工業団地の整備、川谷刈谷地区工業用地の早期企業誘致を行うことで目標達成を目指すとともに、既存企業の生産性向上に繋がる各種支援事業の充実を図る。</p> <p>既存の支援施策は十分な成果が出ておらず、懇談会や企業等訪問の場を通じて利用の促進を図るとともに、支援策の見直しや新たな施策等を検討する必要がある。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	8. 観光の振興

①施策の基本目標

各観光施設・交流拠点のネットワーク化を図り、観光施設の連携促進を図ります。
 また、核となる観光拠点の整備や広域観光の推進を行い、市内各地に観光客が訪れる質の高い観光地づくりをめざします。
 あわせて、香南市情報発信及び国際観光の推進も行います。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
31	観光施設入込客数 (対象11施設)	人	目標		100万	120万	120万	120万	107万	110万	↘	
			実績	100.3万	104.7万	107.7万	106.2万	104.5万				
37	大型クルーズ乗船客の本市への誘客回数	回	目標		-	6	6	6	10	10	↘	
			実績	-	-	2	2	1				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
29	新たな観光拠点の整備	箇所 (累)	目標		0	0	0	1	1	1	↘	
			実績	0	0	0	0	0				
30	ヤ・シー特産品の製造・販売施設の販売額	千円	目標		47,934	51,022	52,578	54,193	54,611	55,030	↘	
			実績	着手	10,628	16,356	26,868	26,548				
30	地産地消の拠点の集客数 (直売所・やすらぎ市・あぐりのさと・天然色市場または第2直販所)	人	目標		300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	↘	
			実績	292,238	281,486	270,069	228,398	225,258				
30	特産品の開発数 (集落活動センター推進事業)	件 (累)	目標		2	3	4	4	5	5	→	
			実績	2	3	3	4	4				
30	イベント集客数(どろめ・絵金・みなこい・冬の夏まつり)	人	目標		60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	↗	
			実績	63,000	60,400	68,000	44,000	64,000				
30	主要観光施設入込数 (DMO協議会:3市9施設)	人	目標		設定	665,200	711,000	732,500	777,000	815,000	↘	
			実績	着手	633,544	675,051	707,185	723,258				
31	歴史を中心とした博覧会の開催(観光客入込数)(対象15施設)	万人	目標		153.7	153.7	154.5	144.5	*	*	↘	
			実績	72	140.2	142.1	138.5	144.0				
32	観光施設連絡会の開催	回	目標		4	4	4	4	4	4	↘	
			実績	4	9	4	3	2				
33	サイクリングコースの設定	コース (累)	目標		3	4	5	6	6	6	→	
			実績	着手	3	6	6	6				
33	ウォーキングコースの設定	コース (累)	目標		6	8	10	10	10	10	→	
			実績	4	8	10	10	10				
34	物部川フェスタの集客数	人	目標		5,000	5,000	6,000	7,500	7,500	7,500	↘	
			実績	5,000	4,000	3,700	5,000	6,000				
35	香南まるごと旨市の参加事業所数	所 (累)	目標		35	36	36	37	37	37	↗	
			実績	35	36	42	46	53				
36	ボランティアガイド(案内人)数	人 (累)	目標		10	19	26	26	26	28	↘	
			実績	10	26	22	23	24				
37	年間プロモーション数	回	目標		6	6	6	6	6	6	↘	
			実績	3	1	2	3	5				

④128の施策ごとの「成果と課題」

29 新たな観光拠点の整備	<p>新たな観光拠点の形成として、三宝山の観光拠点化に向けて平成27年度より取組を開始している。平成29年度は土地及び建物所有者との使用貸借契約の締結(無償:H29.4/1~H34.3/31)と、運営事業候補者の公募を行い、5事業者より応募があり、全ての事業者を運営事業候補者として選定した。あわせて、香南市三宝山観光拠点化基本計画検討委員会を開催し、「基本計画」を策定し、検討委員会より市長に対して答申した。</p> <p>平成30年度に「基本計画」の整備計画の見直しを行い、三宝山エリア全体での観光拠点化を目指すこととした。令和元年度については三宝山中腹の市有地を売却し井上ワイナリー(株)による開発(ワイナリー)を開始した。</p>
---------------	---

30 観光拠点の強化	<p>平成28年6月に、物部川地域(南国市、香美市、香南市)において、観光活性化を面的に推進することを目的として「物部川DMO協議会」が発足し、その協議会と連携し観光拠点の強化を図っている。</p> <p>主要観光施設(香南市:のいち動物公園・アクランド・絵金蔵)への入込客数と地産地消の拠点における集客数については、昨年度以上の集客はあったものの目標値を上回ることはできなかった。イベントの集客数については目標値を上回っており、イベントによって地域の活性化を図ることができた。</p> <p>ヤ・シィ特産品の販売額については、外販件数は増加し、その分売上高は増加したが、大口の外販先での売上げや、ふるさと納税等のカタログの売上減少、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館やイベントの延期により目標値には至らなかった。引き続き、加工所兼店舗の売上増へ取り組む。</p> <p>集落活動センターにおける特産品を活用した商品開発については、令和2年度開設予定の岸本地区集落活動センターの特産品の研究を行った。</p>
31 歴史を中心とした博覧会の開催	<p>「志国高知 幕末維新博」の閉幕や平成30年7月豪雨により入れ込み客数は落ちていたが、令和元年度については、磨き上げてきた「食」や「歴史」の観光資源に加えた、「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン」を通じて、多くの観光施設への誘客が図れ、目標値には届かなかったが入れ込み客数は上昇した。今後は、継続した企画展や魅力ある企画に一層取り組んでいくことと、外国人観光客への情報発信を行い、誘客促進を図る。</p> <p>※観光施設(対象15施設) (香南市) のいち動物公園・月見山こどもの森・ヤ・シィパーク・絵金蔵・香南市サイクリングターミナル(宿泊以外)・アクランド・弁天座 (南国市) 西島園芸団地・県立歴史民俗資料館・パシフィックゴルフクラブ・道の駅風良里 (香美市) アンパンマンミュージアム・龍河洞・ザ・シックスダイアリーかほくホテルアンドリゾート・べふ峡温泉</p>
32 観光施設間の連携	<p>観光施設連絡会を2回開催し、市内各地域の観光施設や宿泊施設等の相互交流を行った。また、市内への誘客や周遊促進策の検討を行い、連絡会の中で観光施設の視察、見学を行うことで、施設間の情報共有を行った。スケジュールに遅れが生じ、第1回目の開催が大幅に遅れたことにより目標数値の回数には至らなかった。来年度以降も、各施設の情報共有とヤ・シィパークを中心とした観光クラスター形成に向けて観光関連事業者の連携した企画やアプリ等を活用した周遊促進策について協議を行う。</p>
33 地域に親しむ観光の促進	<p>サイクリングコースは平成29年度に2コース設定し、合計6コースが設定されている。令和元年度については2コース設定し全8コースと計画したが、新コースのヤ・シィパーク～岸本で整備中の自転車道は当初令和元年度中に完成予定であったが、令和2年6月完成予定となり、また、物部川河川敷のサイクリングロード整備については令和2年8月以降の整備のため、新たなコース設置には至っていない。今後は自転車を活用した観光への取り組みを具現化していくための指針として自転車活用推進計画を令和2年度に策定し、安全・快適に楽しめるイベントや環境整備を進めていく。</p> <p>ウォーキングコースは、各町2コースずつを設定することができ、目標を達成している。今後は、ウォーキングのイベント開催および参加者の増加が図れるように取組を行っている。</p>
34 物部川地域3市での観光振興	<p>平成29年度に物部川流域フェスタ実行委員会を「物部川DMO協議会」へ引き継ぎ、3市(南国市・香美市・香南市)と3市の観光協会・商工会を中心に、令和元年度も物部川フェスタ2019を開催(10/22)した。来場者数は6,000人と目標数の7,500人には至らなかったが集客数は増加した。ステージイベントや3市ならではのうまいもの市を通して、広く市のPRや地域の活性化を図ることができた。</p> <p>来年度以降も同イベントの実施を予定しており、DMO協議会を中心として3市の関係者が連携し、観光振興を図る。</p>
35 活性化に向けたあらゆる産業との連携の強化	<p>市民と地域資源の総力を結集したビジネス支援としてカタログ販売に取り組んでいる。</p> <p>2019-2020香南市ギフトカタログ通年号「まるごと旨市」では53事業所226品目を掲載し10,000部配布。目標値を上回っており、ふるさと納税及び地場促進の販売額を伸ばしていく。</p>
36 おもてなしの向上	<p>観光レクリエーション施設や史跡などを紹介する観光ボランティアガイド(案内人)は現在24名の登録がある。高知県観光ガイド連絡協議会のHPを活用し広報を行い、また他ガイド団体主催の研修会に参加した際に、声掛けを行うなどの広報活動により新規会員1名を獲得できたものの目標値には至らなかった。今後も、会員増に向けた勧誘と案内ができるガイド育成のための勉強会や研修会を開催していく。</p>
37 外国人観光客の受け入れ体制づくり	<p>大型クルーズ乗船客の本市への誘客は絵金蔵(1件46名)のみであった。また、年間プロモーション活動もクルーズ客船のばしふいっくびいなす(4/29)、コスタ・ネオロマンチカ(5/25)、マジスティックプリンセス(8/24)、セレブリティ・ミレニアム(10/16)、飛鳥II(11/20)の5回となり、目標回数には至っていない。</p> <p>今後の取組として、旅行会社へのセールスを行い、香南市の知名度アップを図ることと、各観光名所や地元住民等と連携した体験モニターを実施し、市の魅力発信や集客数拡大を図る。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">C</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>観光施設入込客数や観光客入込数は高い目標値を設定しているため、目標値には届いていない。関係機関と連携し集客に向けた取組は行っているが、集客が多く見込まれる7月・8月に天候の影響を受け、思うような集客が見込めなかった。令和2年度は香南市を訪れる観光客の属性調査・ニーズを把握するために、属性調査を実施し、観光客の把握に努め、効果的な観光施策の実施へとつなげていく。</p> <p>ヤ・シィ特産品(mana*mana)の販売額も大きく目標に届いていない。外販件数は増加し、その分売上高は増加したが、大口の外販先での売上げや、ふるさと納税等のカタログの売上減少、新型コロナウイルス感染症の影響により目標値には至らなかった。引き続き、加工所兼店舗の売上増へ取り組む。</p>

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	9. 住宅関連産業の振興及び定住環境の充実

①施策の基本目標

住環境及び市営住宅の整備、住宅の耐震化を行い、香南市に安心して住み続けてもらう定住環境の充実に努めるとともに、住宅関連産業の振興を図ります。
また、「移住・定住促進」の住まいづくりとして、空き家活用等による効率の良い住宅提供をめざします。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
40	住宅耐震改修件数(工事)	棟	目標	/	110	110	120	120	60	60	↘	
			実績	100	70	89	68	57				
42	空き家バンク登録件数	棟 (累)	目標	/	3	5	20	40	52	64	→	
			実績	着手	3	18	32	40				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
38	住宅リフォーム助成件数(予算)	件 (万円)	目標	/	67 (1,000)	75 (1,500)	75 (1,500)	75 (1,500)	75 (1,500)	-	↗	
			実績	78 (1,000)	57 (978)	89 (1,409)	100 (1,456)	98 (1,500)				
39	合併浄化槽および手摺設置 件数(改良住宅)	棟	目標	/	24	30	30	30	20	20	↘	
			実績	10	20	14	14	0				
39	屋根外壁改修の棟数(改良住宅)	棟	目標	/	2	0	0	8	18	7	↘	
			実績	8	2	0	0	0				
40	木造耐震診断件数	件	目標	/	120	120	120	120	60	60	↘	
			実績	113	127	94	83	63				
40	コンクリートブロック塀等への対策 件数	件	目標	/	15	15	15	15	25	25	↗	
			実績	9	12	14	27	25				
41	老朽化した住宅等の除去件 数	件	目標	/	20	20	20	20	30	30	↗	
			実績	23	20	20	28	29				
42	移住者向け支援住宅の整備 件数(市管理)	棟 (累)	目標	/	1	2	1	1	1	1	→	
			実績	0	0	1	1	1				

④128の施策ごとの「成果と課題」

38 住環境の整備	市内に所有および居住する個人住宅を対象に、住宅のリフォーム工事に対して工事費(消費税抜)の20%(上限20万円)で補助を行った。令和元年度は98件の利用(交付額1,500万円)があった。補助金のニーズは高く、また昨年度要望のあった限度内での再度の利用についても、補助金交付要綱の一部見直しを行い、再度補助金の利用ができるようにした。
39 市営住宅の整備	市営住宅の改修については、現在住まれている方からの了承を得る必要があることから、居住者との交渉を行ってきたが、了承を得ることに時間を要したことから、令和元年度については、年度当初に予定していた市営住宅22戸の合併浄化槽等設置工事の設計までに留まった。次年度は、設計が完了した22戸の住宅に合併浄化槽や手摺り等を設置する工事を実施する。屋根外壁改修についても次年度より計画的に改修を進めていく。
40 南海トラフ地震への備え	住宅耐震診断の費用を補助し、個人住宅の耐震化の促進を図った。木造住宅は自己負担3千円(診断調査手数料)で、非木造住宅は3万円を補助している。木造耐震診断は63件の利用があったが平成28年度より減少傾向であり、制度の更なる周知が課題となっている。 また、住宅耐震改修(工事)は57棟の利用があったが、耐震診断同様に目標値を下回っている。両制度の周知はもちろんのこと、耐震診断だけで終わらず耐震改修に繋げていくことと住宅耐震化の重要性を広報や自主防災組織連絡会、その他イベント等を通じて啓発していく。 コンクリートブロック塀への対策数については目標値を上回っており、平成30年6月の大阪府北部地震後に問い合わせが多数あり、コンクリートブロック塀耐震対策の必要性について住民の意識が高まっている。引き続き制度の周知・啓発を行う。
41 老朽化した住宅等の除去	避難路等に面し倒壊により避難路を閉鎖する可能性のある又は延焼により近隣住民に影響するような場所にある著しく老朽化した住宅等の除去に要する経費に対して、補助金(補助率80%、上限1,645千円)の支給を行った。令和元年度は29件の利用があり、事業は順調に進んでいる。事業の問い合わせは多く、住民のニーズは大きい。老朽化が進んでいる住宅の所有者には積極的に制度の説明を行い、撤去を推進していく。

42 移住者向け住宅の確保と促進

香我美町の東川・西川地区と夜須町の北部地区の中山間地域をモデル地域とし、市が空き家を10年間借上げ、移住者向けのお試し住宅の整備を1棟行っており目標は達成している。
 また、香南市全域を対象とした「空き家バンク」の登録については、令和元年度は8棟(累計40棟)の登録を行うことができ、目標は達成した。今後は、整備したお試し住宅の利用促進と「空き家バンク」の登録物件数の増加はもちろんのこと、地域住民や不動産業者等、民間との協力・連携を強化し、情報収集と情報発信に取り組んでいく。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見
B	《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない	定住環境の充実として、住宅耐震改修および木造耐震診断に取り組んでいるが、目標件数には至っておらず、引き続き、制度の周知に努める。 住宅リフォーム助成事業は、市民ニーズも高く、制度の利用率も高く、住宅関連産業の振興も図られることから、今後も継続できるように取り組む。 また、「移住・定住促進」のための空き家バンクも目標以上に確保できており、移住者の実績は毎年増加している。引き続き、空き家バンクの整備と地域での移住者の受け入れ体制の充実に努めていく。

施策大綱名	第2章 産業振興
基本施策名	10. 分野を超えた連携

①施策の基本目標

様々な地域資源(生産物・風景・伝統文化など)の価値を再発見・創造し、新たな魅力づくり(付加価値化)や地域づくりの効果的な連携により地域経済の活性化を図ります。
また、雇用支援、企業支援のための情報発信、情報入手の場の整備を行い、人材の育成・確保を図ります。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
43	市内生産物を活かした魅力ある新商品の開発	件 (累)	目標		着手	0	1	1	2	2	↗	
			実績	-	0	5	6	8				
44	食や体験、宿泊などを組み合わせた周遊モデルコース数	コース (累)	目標		4	6	8	10	10	10	↘	
			実績	着手	4	6	6	6				
45	産業人材支援制度利用者数【再掲】	件 (累)	目標		5	10	15	20	25	30	↘	
			実績	着手	0	1	2	5				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
44	情報発信となるアンテナショップの設置	箇所 (累)	目標		0	0	0	0	0	1	-	
			実績	0	0	0	0	0				

④128の施策ごとの「成果と課題」

43 6次産業化による地産地消・外商の推進	農作物のブランド化の推進と加工品の開発に取り組み、平成29年度に5件(山北みかんバター、山北みかんかき氷、山北みかんジュース、山北せとかジュース、山北せとかゼリー)の商品開発に成功し、山北みかんバターと山北みかんかき氷は販売を開始している。令和元年度は、山北レモン塩バターとペッパーバターの商品開発に成功し販売を開始した。 今後も引き続き、販売団体の生産・外商・運営体制を確立し、販売数の増加に取り組んでいく。
44 観光クラスターの整備	平成29年度に2つの周遊モデルコースを設定し、合計6コースとなっている。本年度新たなコースの設定はできていない。目標達成には至っていない。コース設定はもちろんのこと、設定に際しては、外国人観光客の受入体制の強化や観光施設が連携した魅力的な観光コースの設定をめざして取り組んでいく。
45 産業人材の育成・確保	産業人材支援制度は利用実績は3件であり、平成30年度に事業が利用しやすいように補助対象事業の拡充を行い、市HPや企業訪問、また懇談会や商工会を通じて事業の周知を行い、また高知職業能力開発短期大学校と連携し、同校が主催する人材研修への参加も募った。昨年度の実績を上回ることが出来たが目標値には達していない。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p> <p>山北みかんを生かした6次産業化に取り組み、商品開発や販売の開始ができており、今年度は、販売団体の生産・外商・運営体制を確立し、販売数の増加に取り組めた。引き続き、販売団体の生産・外商・運営体制を確立し、販売数の増加に取り組んでいく。 食や体験、宿泊などを組み合わせた周遊モデルコース(観光クラスター)の整備については、新たなコース整備は図れていないが、整備したモデルコースの魅力のPRには努めている。今後の取組として、予定している自転車やヤ・シィパークなどを活用した新たなクラスターの整備に分野を超えた連携を意識して、地域経済の活性化を図っていく。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	11. 幼年期の支援の推進

①施策の基本目標

誰もが安心して子どもを生み育てることができ、子どもがいきいきと健やかに育つ環境を整えるために、家庭・地域・関係機関と連携しながら妊娠・出産・育児・就学前保育・教育をサポートしていく施策を展開します。
 すべての子どもがすこやかに成長・発展できるよう、また安心して子育てができるよう、妊娠期からの継続した相談や支援が受けられる体制の充実に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
47	乳児家庭訪問率 (H27年度のみ延訪問率)	%	目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	128.0	99.2	98.1	97.5	98.6				
48	地域子育て支援センター利用者数	人	目標		5,200	5,800	6,400	7,000	10,800	10,800	↗	
			実績	4,811	4,542	9,733	8,436	11,175				
48	市のHP(子育て情報サイト)のアクセス数	回	目標		3,000	4,000	5,000	6,000	9,000	9,000	↗	
			実績	着手	1,826	4,328	6,031	9,063				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
46	パパママ教室参加率	%	目標		12.8	13.0	13.2	13.4	21.0	21.0	↗	
			実績	14.3	18.2	11.5	20.8	17.4				
47	育児教育相談利用者数(延)	人	目標		562	562	562	562	650	650	↗	
			実績	697	545	491	723	636				
48	ショートステイ施設数	件	目標		5	5	5	5	5	5	→	
			実績	3	4	4	5	5				
48	保育所の一時預かり数(延)	人	目標		838	838	838	838	1,300	1,300	↗	
			実績	1,001	977	1,217	1,229	1,470				
49	本の読み聞かせ回数(健康対策課)	回	目標		12	12	12	12	12	12	↘	
			実績	12	12	12	12	11				
49	本の読み聞かせ回数(こども課)	回	目標		24	24	24	24	24	24	↘	
			実績	24	24	24	24	19				
49	本の読み聞かせ参加者(図書館およびボランティア)	人	目標		500	500	500	500	500	500	↗	
			実績	480	460	896	970	1,122				
49	図書館利用者数(登録者数)(野市・香我美)	人(累)	目標		15,000	22,000	23,000	24,000	25,000	26,000	↗	
			実績	14,510	14,411	22,763	23,431	24,179				
49	朝食摂取割合(3歳児)	%	目標		98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	↘	
			実績	95.3	94.7	96.6	93.9	96.5				

④128の施策ごとの「成果と課題」

46 妊産婦の安心で安全な環境づくりの推進

パパママ教室を年3コース(計11回)開催し、参加率は17.4%と目標値を大きく達成している。教室では、妊娠中の生活、出産について、呼吸法、妊婦体操他、妊娠中と授乳期の食生活、沐浴体験などの内容で安心して妊娠・出産・育児ができるように支援を行っている。妊婦同士の交流や、父親の役割を考える機会ともなり父親の育児参加の支援の場にもなっている。事業は継続して行い、事業の周知や関係する組織内部の連携強化に努める。
 母子健康手帳交付時には保健師が全届出者に面接を行っており、母子保健サービスを紹介したり、妊婦アンケートや面接時の状況から、訪問や相談につなげるなど妊娠期から出産後までの切れ目ない支援体制をとることができた。今後も継続して、支援を行っていく。

<p>47 親と子の心と体の健康づくり</p> <p>乳児家庭全戸訪問は原則生後4か月を迎えるまでのすべての乳児のいる家庭を対象としているが、県外への里帰り出産や長期入院等を理由に生後4か月を経過して訪問せざるを得ない場合もあり、これらを含めて訪問率は98.6%である。来所面接を希望される家庭もあるため100%は困難であるが、全数把握はできている。引き続き子どもの発達状況や母親の健康状態を確認し、育児不安の解消と乳児家庭の孤立化を防ぎ、必要な支援につなげ、乳児の健全な生育環境の確保に努める。</p> <p>健康対策課主催の育児相談(月1回)・母乳相談(週1回)を開催している。9月からは総合子育て支援センターへのつなぎや同じ悩みを持つ母親同士の仲間づくりを目的とし総合子育て支援センター内で実施している。こども課主催の育児教育相談(教育相談、ほのぼの相談、子育て支援センターでの相談)は636件の利用があった。年度によって相談件数は変動するが、相談先が複数あることでより相談しやすい状況であると思われる。</p>
<p>48 子どもと子育て家庭に優しい環境づくり</p> <p>保育所・幼稚園に通っていないお子さんの子育てをしている方の、子育て応援として「地域子育て支援センター」を開設し、11,175人の利用があった。引き続き、利用者の増加を図るとともに、総合子育て支援センターが令和元年度に開設され、支援が低下することなく、子育て家庭への専門性を生かした総合的な支援ができる拠点施設となるように努めていく。</p> <p>平成28年度に開設した、子育て情報サイトへのアクセス数は9,063件あった。メルマガ配信内容に「エプロンだより」と「すこやか通信」を入れることで登録者数及びアクセス数が増加している。今後も情報内容の工夫を図り、子育て情報を多くの方に見ていただくよう努める。今後は、子育て支援の各種行政サービスや地域の子育てに関する情報を冊子にまとめた「香南市子育てガイドブック」のリニューアルを行う。</p> <p>ショートステイ施設(子育て短期支援事業)は、5ヶ所(児童養護施設2ヶ所、母子生活支援施設2ヶ所、乳児院1ヶ所)と契約を結んでおり目標値を達成している。</p> <p>保育所の一時預かり数は1,470人で、目標以上の利用があった。利用者のニーズも多くなっているため、対応できるよう体制を整えていく必要がある。</p> <p>※子育て短期支援事業(ショートステイ)・・・保護者の方が疾病その他の理由により、家庭において児童を養育することが一時的に困難となった場合や、経済的な理由により緊急一時的に母子を保護することが必要な場合等に利用できる施設。</p>
<p>49 質の高い保育・教育の推進</p> <p>健康対策課とこども課の共催で、ブックスタート事業として、10ヶ月相談時にボランティアの協力を得て、親子のふれあいの促進と乳幼児期から絵本に親しみ、読み聞かせの大切さの啓発をし、受診者には絵本を1冊贈呈を行った。新型コロナウイルス感染症の影響により検診が中止となったため、目標値には至らなかった。また、こども課主催で、各保育所・幼稚園では外部講師による読み聞かせ(就学前読書活動)を実施した。読み聞かせは、子どもたちに絵本の楽しさに気づかせたり、読書への興味関心を高めることで感性や親子のふれあい促進に必要な事業であり、今後も取り組んでいく。</p> <p>生涯学習課主催で、図書館主催事業や読書ボランティア団体の協力を得ながら子どもたちに読み聞かせを行い、1,122人の参加があり、目標を大きく上回った。読み聞かせのニーズは高く、読み聞かせとあわせてボランティア集団の育成を図っていかねばいけない。</p> <p>3歳児の朝食摂取率は、平成30年度より増加しているが、96.5%と目標値には至っていない。ライフスタイルが多様化もあり、料理の機会や経験が少ない保護者が増えているため、そこに対する意識付けが課題である。</p>
<p>50 すべての子どもの成長を保障する環境づくり</p> <p>養護相談については、目標を定めるのではなく、必要な時に応じることができる体制をとっている。今後も、すべての子どもたちが平等で安全にすくすくと育つ環境を整えていくことと、利用が増加するようであれば、事業所との相談体制の拡充を図る必要がある。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>パパママ教室などの妊産婦期の相談活動や育児相談(健康対策課・こども課)など妊娠・育児をサポートしていく施策を展開し、参加者も概ね予定通りであった。事業は継続して行い、事業の周知や関係する組織内部の連携強化に努める。</p> <p>子育て支援センターの利用者も多く、子育て家庭への支援が図れている。総合子育て支援センターが開設され、支援が低下することなく、子育て家庭への専門性を生かした総合的な支援ができる拠点施設となるように努めていく。</p> <p>読み聞かせ等の活動も推進でき、図書館の利用者(登録者)数も目標を上回り、感性やふれあいの促進に必要な読書への興味関心が高まっている。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	12. 就学期の支援の推進

①施策の基本目標

豊かな心を持ち、たくましく健やかに子どもが育つ環境を整えるために、家庭・地域・関係機関と連携しながらサポートしていく施策を展開します。
また、地域社会の見守り、就学支援、質の高い教育環境を整えることなどによって、香南市で子どもを育てたいと思える環境づくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
52	児童クラブの利用者数	人	目標		340	385	385	385	385	450	↗	
			実績	336	359	375	370	390				
53	朝食接種割合(小3～小5)	%	目標		96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	↘	
			実績	95.9	95.0	95.1	95.0	94.1				
54	地域学校協働本部設置数	校 (累)	目標		5	6	7	8	11	11	↗	
			実績	4	5	6	7	11				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
51	凧揚げ・地引網等参加者数	人	目標		1,150	1,200	1,200	1,200	1,300	1,300	↗	
			実績	1,132	1,073	1,150	1,300	1,300				
51	スポーツ少年団の団体数	団体	目標		26	27	28	28	29	29	↘	
			実績	27	26	27	26	26				
51	スポーツ少年団の会員数	人	目標		580	600	610	620	610	610	↘	
			実績	597	543	518	532	521				
51	夏休みこども教室の開催数	回	目標		22	23	24	25	25	25	↗	
			実績	21	25	25	25	29				
53	親子料理教室開催数	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1				
54	児童生徒の夢や役立ち意欲の割合(強い肯定)(小学6年生)	%	目標		86.0	86.5	87.0	87.5	90.0	95.0	↗	
			実績	88.9	89.4	91.4	73.4	88.8				
54	児童生徒の夢や役立ち意欲の割合(強い肯定)(中学3年生)	%	目標		75.0	75.2	75.5	76.0	77.0	77.0	↗	
			実績	64.5	74.1	75.0	46.0	76.8				
55	不登校児童生徒の発生率(小学校)	%	目標		0.95	0.90	0.80	0.70	0.60	0.50	↘	
			実績	1.31	0.95	1.31	0.62	1.05				
55	不登校児童生徒の発生率(中学校)	%	目標		6.38	5.00	4.50	4.00	4.00	3.50	↘	
			実績	5.03	6.25	5.05	5.41	4.86				
55	スポーツ大会開催数(小中高校生対象)	回	目標		3	3	3	3	3	3	↗	
			実績	3	3	5	4	5				
55	スポーツ大会参加団体数	団体	目標		60	60	60	60	60	60	↗	
			実績	60	60	88	83	98				

④128の施策ごとの「成果と課題」

51 豊かな人間形成を育む環境づくり	<p>地域社会との関わりが重要なことから、各種イベント等の開催に取り組んでいる。 三世交代交流イベントとして凧揚げを実施し、参加者数は昨年度と同じく1,300人で目標も上ることができた。就学前児童から小学生まで多くの子どもと保護者の参加があり、屋外での交流の場として続けていきたい。会場、駐車場のキャパとしては1,300人が限界である。また、スポーツ少年団については、団体数は目標値には至らなかったが、少子化が進む中、数あるスポーツ種目をほぼ網羅しておりニーズは満たされている。少子化や余暇活動の多様化等で会員数が伸び悩んでおり目標値には至っていない。団体が継続して活動できる環境づくりを行うとともに、参加者への声掛けにも努めていく必要がある。 夏休み親子教室は予定以上に開催できた。学年・男女に関係なく参加できることを念頭に置いて開催しているが、公民館がない赤岡・吉川からの参加者が少ないのを解決することが課題である。</p>
52 子ども・親・家庭に優しい環境づくり	<p>児童クラブを5つの小学校区で実施し、共働き家庭等の児童(1～6年生)を放課後から18時(一部18時30分)まで預かり、令和元年度は390人の利用があった。安定的な放課後児童支援員の確保に努める。また、野市小学校及び香我美小学校では定員を超える受入を行っているにも関わらず、待機児童が発生しているため、その解消を図るために、令和2年度に新たな施設整備を行う。</p>

<p>53 親と子の心と体の健康づくり</p>
<p>小学校3～5年の朝食摂取割合は、94.1%で目標値には至っていない。栄養バランスの取れた朝食を自ら考え摂取する実践的な児童の育成及び児童を通じて家庭にどのような方法で啓発していくかが課題である。朝食摂取の改善を図るために副読本の活用や保健だより・学校だより等の通信を活用して、家庭への啓発を図り、また給食指導を通して、栄養教諭から児童に朝食の大切さを伝えていく。</p> <p>また、親子料理教室として、各学校での開催と別に、香南市全体でも1回開催(11月30日・12月1日の2日間)し、30家庭の参加者があり、参加者には好評であった。リピーターも多く、応募者総数も増えている。しかし、正しい食生活や食を楽しむ心を、関心の薄い家庭にどのように啓発するかが課題である。</p>
<p>54 学校と地域の連携による教育環境づくり</p>
<p>地域学校協働本部は本年度の目標も達成し11校すべての小中学校で設置できた。協働本部では、地域の人材を積極的に活用し、保護者や地域の方とあいさつ運動や交通指導に取組、地域の見守り体制の強化に繋がっている。今後も、地域学校協働本部によるボランティア活動を見守り体制に活かし、また地域ボランティアを募集し、住民による学習支援・活動支援・見守り活動・地域活動への支援を呼びかける。</p> <p>また、全国学力・学習状態調査での、「児童生徒の夢や役立ち意欲の割合(強い肯定)」では、中学3年生は43.7%で、小学校6年生においては70.9%と共に目標を下回る数値となっている。弱い肯定を含めると小中学校共に目標を上回る数値となるため、弱い肯定群を強い肯定群に引き上げるよう今後も職場体験学習等を踏まえたキャリア教育や自尊心の高揚に向けた取組を小学校よりから中学校まで積み上げてきていく必要がある。</p>
<p>55 すべての子どもの成長を保障する環境づくり</p>
<p>不登校児童生徒の発生率について、中学校においては昨年度より減少し4.86%であった。すべての中学校で「魅力ある学校づくり調査研究事業」を実施し、新規の不登校児童が出ないよう未然防止の取り組みを行った結果、不登校生徒数は減少傾向にある。しかし、依然として数値は高いので、継続的な取組が必要である。小学校においては、1.05%と増加している。小学校においても「魅力ある学校づくり調査研究事業」を実施し、新規の不登校児童が出ないよう未然防止の取り組みを行ったが、未だ不登校児童数に課題が見られる。引き続き、各学校で同僚性を生かした継続的な取組が必要がある。</p> <p>また、不登校児童生徒だけでなく、すべての子どもの安心できる環境づくりや健やかな成長を育む環境づくりに努めていく。</p> <p>社会教育においては、市長杯サッカー大会(小学生・中学生)、市長杯中学校招待野球大会、相撲大会(少年・高校冬季)の5回開催し、全98チームの参加があり、開催数・参加団体数ともに目標を達成できた。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>家庭・地域・関係機関と連携し、地域学校協働本部の設置は全小中学校に設置し目標を達成できた。児童クラブの利用者数はほぼ目標以上の利用者数であり、待機児童が発生している状況であり、その解消を図るために、新たな施設整備を図る。また、地域社会と関わる各種イベントや教室等も開催し、たくましく健やかに子どもが育つ環境づくりに取組、児童生徒の役立ちたいという意欲も目標以上である。キャリア教育の成果の表れや、小学校より積み上げてきている取組が成果として表れてきており、職場体験学習等を通して自己の将来や社会に関する意識の向上につながっている。</p> <p>しかし、不登校児童の解消や児童生徒の夢や意欲を持つ割合の向上はあまり改善が見られない。学校や関係機関と連携を図りながら、全ての子どもが安心できる環境づくりに努めていく。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	13. 成年期の支援の推進

①施策の基本目標

誰もが参画できる地域社会を形成し、新たな出会いがあり、家庭を築き、安心して子どもを産み育てられ、生きがいを感じられる生活環境づくり、活気ある地域社会の形成を支援する施策を展開します。
また、地域の活力の源となる人口を増やすことが重要であり、香南市に移り住む方を応援し、受け入れ体制づくりの充実を図ります。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
57	出会いの場の参加人数	人	目標		60	60	60	200	100	100	↘	
			実績	着手	77	179	141	77				
61	移住者 (移住相談窓口を通じた数)	組	目標		2	5	10	20	32	34	↗	
			実績	1	6	18	29	29				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
56	健康診査受診者数 (20～39才)	人	目標		110	110	110	110	115	115	↘	
			実績	143	135	112	111	85				
56	外出支援サービスでの外出 支援利用率(下段:利用者数)	%	目標		100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100 (5)	100 (7)	100 (6)	100 (6)	100 (6)				
57	出会いの場の開催回数	回	目標		3	3	3	3	3	3	↘	
			実績	着手	3	3	2	2				
57	婚姻件数	件	目標		148	150	152	154	156	158	↘	
			実績	142	139	161	129	125				
57	合計特殊出生率	人	目標		1.50	1.54	1.57	1.60	1.62	1.64	↘	
			実績	1.48	1.52	1.30	1.58	1.45				
58	パパママ教室参加率【再掲】	%	目標		12.8	13.0	13.2	13.4	21.0	21.0	↗	
			実績	14.3	18.2	11.5	20.8	17.4				
59	各種教室の開催回数	回	目標		170	170	170	170	170	170	↗	
			実績	179	613	431	484	462				
59	市長杯・教育長杯への参加者 数	人	目標		500	520	550	570	800	800	↗	
			実績	480	501	490	769	873				
59	スポーツ少年団認定員資格 の取得者数	人 (累)	目標		66	66	66	68	75	78	↗	
			実績	64	71	73	79	81				
59 60	地域ボランティア登録者数	人 (累)	目標		100	100	100	100	100	110	↗	
			実績	103	124	135	141	151				
59	町民運動会参加団体数	団体	目標		41	42	42	43	43	44	↘	
			実績	41	36	39	38	36				
59	市美術展への出品者数	人	目標		230	230	230	230	230	230	↘	
			実績	225	204	182	208	177				
59	健康診査運動習慣(2回) (H29年度まで上段:男性・下段:女性) (H30年度から合算で20～39才が対象)	%	目標		34.0 20.0	34.0 24.0	18.0 18.0	20.0 10.0	20.0 10.0	20.0 10.0	↘	
			実績	27.0 9.4	22.9 12.0	37.5 8.0	18.0 18.0	10.0 10.0				
61	移住促進HPのアクセス回数	回	目標		300	4,000	5,000	65,000	68,000	70,000	↘	
			実績	着手	3,582	49,825	67,226	55,407				
61	空き家バンク登録件数【再掲】	棟 (累)	目標		3	5	20	40	52	64	→	
			実績	着手	3	18	32	40				
61	移住者向け支援住宅の整備 件数(市管理)【再掲】	棟 (累)	目標		1	2	1	1	1	1	→	
			実績	未実施	0	1	1	1				

④128の施策ごとの「成果と課題」

<p>56 いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進</p> <p>健康で安心して暮らせる環境づくりの第1歩として、健康診査(20～39歳)を実施し、85名が受診した。全体として野市地区実施分の受診者が減少したため目標値には至らなかった。若い世代から生活習慣病のリスクが高い方も多く、事業を利用することで、疾病を早期発見、早期治療し、結果として壮年期の死亡の減少、医療費等の軽減につながる為、今後も引き続き取組を継続していく。</p> <p>また、社会参加のための外出支援サービスを実施しており、令和元年度は6人の利用があった。障害の等級や程度のみを考慮した対象者数は約470人であるが、課税状況や他のサービスの利用状況等を鑑みると、対象者はさらに絞られる。移送車両を用いた移動支援を必要としている心身障害者のサービス利用を促進するよう、体制を確保し整える必要がある。</p>
<p>57 出会い・新しい家庭づくり支援の推進</p> <p>香南市恋いめぐりあい応援事業を活用し、ボランティア団体(よりあいにこ家)が「出会い・結婚の窓口相談」を開設し、61名の利用者があった。また市主催の婚活セミナーを10月27日に開催し、16名の参加者があった。セミナー、相談窓口と事業はあるが、イベント型事業での参加者を増やすことで様々な未婚男女のニーズに応えられるようにすることが課題で、また、よりあいにこ家の相談対応者数が減っている現状について、活動の周知不足の面もあると聞いているが、今後は広報含め団体の活動状況の把握や、サポートしていく必要がある。</p> <p>婚姻件数においては、125件で目標値には達していない。近年で最も少ない数値となっている。</p> <p>合計特殊出生率は、1.45で、目標値には至らなかった。出生数も216人と前年度と比較すると少なくなっている。今後も、出生率についての分析を行うとともに、引き続き、子どもの出産と育児に対する環境の支援体制を図っていく。</p>
<p>58 親と子ども・働く環境との両立支援の推進</p> <p>パパママ教室を年3コース(計11回)開催し、参加率は17.4%と目標値を大きく達成している。教室では、妊娠中の生活、出産について、呼吸法、妊婦体操他、妊娠中と授乳期の食生活、沐浴体験などの内容で安心して妊娠・出産・育児ができるように支援を行っている。妊婦同士の交流や、父親の役割を考える機会ともなり父親の育児参加の支援の場にもなっている。事業は継続して行い、事業の周知や関係する組織内部の連携強化に努める。</p> <p>母子健康手帳交付時には保健師が全届出者に面接を行っており、母子保健サービスを紹介したり、妊婦アンケートや面接時の状況から、訪問や相談につなげるなど妊娠期から出産後までの切れ目ない支援体制をとることができた。今後も継続して、支援を行っていく。</p>
<p>59 生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援</p> <p>こうなんスポーツクラブへ委託しているスポーツ教室は、毎年要望等を受け変更しており、令和元年度は延462回開催した。また、各種スポーツ大会として、市長杯など、バドミントン、ヨット、ソフトバレーボール、パークゴルフ、ラージボール卓球、ベタンク、ゴルフ、テニスなど多岐にわたる種目を行っており、参加者は目標570人に対し、873人の参加があった。運営者や競技者の高齢化により大会の維持が難しくなっている競技種目もある。また、参加者数は年度により変動があるが、競技人口はいるので周知徹底し参加を促していく必要がある。</p> <p>市美術展への出品者数は、昨年度よりも減少し目標の達成には至っていない。出品者の高齢化に伴い、年々減少傾向である。県内の公募展も全体的に減少し、県女展も廃止となっている。市展自体の見直しを考える必要がある。</p> <p>ボランティア登録数については、香南市ボランティアセンターへの登録者数であり、目標値を大きく上回っている。主な活動支援内容は、読書ボランティア活動であり、保育所・幼稚園への読み聞かせ活動で今後も継続して行なっていくが、登録者の方々の高齢化が進んでおり、後継者の育成が課題となっている。</p> <p>運動習慣については、平成30年度から男女合算の数値に変更し、全体での運動習慣の向上にむけて、啓発活動を行っているが目標値には至らなかった。若い世代の運動習慣は、他の年代と比較すると低い状況にあり、理由は「時間がない」であった。運動の効果や継続の大切さについて啓発や事業を実施していく。</p>
<p>60 配慮が必要な人、誰もが安心して生活できる地域社会の形成支援</p> <p>ボランティア登録数については、香南市ボランティアセンターへの登録者数であり、151人の登録があり目標値を大きく上回っている。主体は社会福祉協議会であり、地域住民のボランティア活動の発掘・仲介等を行なった。</p>
<p>61 移住者ウエルカム支援の推進</p> <p>令和元年度の移住者(移住相談窓口を通じた数)は、29組(39人)で目標値を上回った。移住専門相談員の配置及び他課と連携した移住相談を受けることで、県外移住者が増加している。</p> <p>移住促進HPと空き家バンクに平成28年度から取り組んでおり、令和元年度は55,407回のHPアクセスと8棟(延40棟)の空き家バンクの登録を行うことができています。移住専門HP「香南住む〜ず」のアクセス数は、昨年同時期と比較すると減少している。HPでは、特に「住む」の空き家バンクを閲覧している方が多い中、今年度は登録件数が伸びておらず、更新回数が減少していることが大きな要因の一つと考えられる。今後は情報発信内容・方法を工夫しSNS・Instagram・Facebookも積極的に活用していくとともに、他課とも密に連携をとることで、就職に関する情報等、多方面に渡る情報発信ができるよう努めていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>成年期の世代が活気ある地域社会の形成を図れるように、各種教室や大会を実施し、予定通りの参加者があった。また、教室や大会への参加以外にも運動習慣は欠かせないものであるが、健康診査受診者の内、運動習慣がある方は1/4以下であり、男女関係なく成年期からの運動習慣の効果や継続の大切さについて啓発や事業を実施していく。</p> <p>移住者を増やす取組の成果が表れ移住者も目標以上となっている。移住専門相談員の配置及び他課と連携した移住相談を受けることで、県外移住者が増加しており、今後も引き続き取り組んでいく。</p> <p>婚姻件数は例年より少なく、合計特殊出生率も目標には至らなかった。今後、婚姻と出生率等の分析を行っていく。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	14. 熟年期の支援の推進

①施策の基本目標

賑わいとゆとりを感じ、健康で世代間交流や地域社会に貢献する喜びを感じられる環境づくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
62	特定健診受診率の向上 (40~64歳)	%	目標	/	55.0	60.0	60.0	60.0	30.0	30.0	↘	
			実績	30.9	29.4	29.2	29.8	29.1				
62	健康診査運動習慣(2回) (H29年度まで上段・男性・下段・女性) (H30年度から合算で40~74才が対象)	%	目標	/	33.0	34.0	43.0	43	43	43	↘	
			実績	31.8 26.5	35.3 25.8	28.0 23.0	37.8	38.3				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
62	メタボリックシンドローム該当者割合(男)	%	目標	/			30.0	30.0	30.0	30.0	↘	
			実績				32.0	32.3				
62	メタボリックシンドローム該当者割合(女)	%	目標	/			13.0	13.0	13.0	13.0	↘	
			実績				15.4	15.2				
62	睡眠で休養がとれている割合	%	目標	/			75.0	75.0	75.0	75.0	↘	
			実績				72.0	71.7				
63	地域ボランティア登録者数【再掲】	人 (累)	目標	/	100	100	100	100	100	100	↗	
			実績	103	124	135	141	151				
63	凧揚げ・地引網等参加者数【再掲】	人	目標	/	1,150	1,200	1,200	1,200	1,300	1,300	↗	
			実績	1,132	1,073	1,150	1,300	1,300				
63	町民運動会参加団体数【再掲】	団体	目標	/	41	42	42	43	43	44	↘	
			実績	41	36	39	38	36				
64	社会参加のための外出支援サービス支援利用率(下段:利用者数)【再掲】	人	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100 (5)	100 (7)	100 (6)	100 (6)	100 (6)				

④128の施策ごとの「成果と課題」

62	いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進	<p>特定健診の受診率(40~64歳)は、令和2年6月月例報告からの暫定値であるが、目標値より低くなっており、より一層の啓発が必要である。受診促進にむけ、セット検診や休日検診の実施により利便性の向上を図る。運動習慣については、年代で見ると、40~50代の運動習慣が低い状況にあり、理由は「時間がない」であった。運動の効果や継続の大切さについて啓発や事業を実施していく。</p> <p>新たな指標として、平成30年度よりメタボリックシンドローム該当者割合と睡眠で休養がとれている割合を追加した。メタボリックシンドローム該当者割合については、男女ともに県や全国と比較しても高く、目標値に達していない。就寝前の夕食、飲酒量や間食の頻度が高い状況である。睡眠で休養がとれている割合についても、県や全国と比較しても低く、目標値に達していない。睡眠時間だけではこころと体の健康は計れない面もあるが、これも一つのバロメーターという認識を持ってもらう必要がある。</p>
63	生きがいを感じられ参画できる地域社会の形成支援	<p>三世代での交流イベントへの参加は生きがいを感じることのできる活動であり、就学期、成年期の取組と重複するが、凧揚げ、町民運動会への参加者数はほぼ目標通りだった。</p> <p>ボランティア登録数についても、成年期と重複となるが、香南市ボランティアセンターへの登録者数であり、目標値を大きく上回っている。主な活動支援内容は、読書ボランティア活動であり、保育所・幼稚園への読み聞かせ活動で今後も継続して行なっていくが、登録者の方々の高齢化が進んでおり、後継者の育成が課題となっている。</p>
64	配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援	<p>成年期と同様に熟年期においても、社会参加のための外出支援サービスを実施しており、令和元年度は6人の利用があった。障害の等級や程度のみを考慮した対象者数は約470人であるが、課税状況や他のサービスの利用状況等を鑑みると、対象者はさらに絞られる。移送車両を用いた移動支援を必要としている心身障害者のサービス利用を促進するよう、体制を確保し整える必要がある。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
C	<p>特定健診は自身の健康状態を確認し、健康づくりにつながる重要な健診であるが、その受診率が目標値より低くなっている。熟年期は、運動習慣や健康への不安も生じる時期であり、各種健診の周知を行うことはもちろんのこと、支援や受診率の向上を図っていく必要がある。各種がん検診と特定健診のセット健診を実施するなど市民の利便性を考慮した実施に努め、運動の効果や継続の大切さについて啓発や事業を実施していく。</p> <p>熟年期の世代が自ら参画し活気ある地域社会の形成を図れるように、各種教室や大会を実施した。参加者はほぼ目標どおりであり、今後も参加者の増加に努めていく。</p>

施策大綱名	第3章 人生支援
基本施策名	15. 高齢期の支援の推進

①施策の基本目標

健康で長生きできる環境、地域交流や世代間交流を楽しめる環境づくりによって、香南市に住んで良かったと思える、地域での支え合いのある安全・安心な環境づくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
67	介護ボランティア参加者数 (延)	人 (累)	目標		645	670	760	760	700	700	↘	
			実績	628	711	908	825	588				
69	いきいきクラブ事業参加者数 (延)	人	目標		5,700	5,700	5,700	5,700	5,500	5,500	↘	
			実績	5,665	5,642	5,591	5,592	5,275				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
65	特定健診受診率の向上 (65～74歳)	%	目標		55.0	60.0	60.0	60.0	50.0	50.0	↘	
			実績	47.8	41.1	45.3	44.7	43.3				
65	口腔機能向上教室および高齢者 食生活改善栄養教室参加数	人	目標		250	250	250	90	150	160	↗	
			実績	239	246	73	95	111				
65	パークゴルフ・ペタンク参加者 数	人	目標		150	155	160	165	170	175	↘	
			実績	131	123	150	155	119				
65	健康診査運動習慣(2回) (H29年度まで上段:男性・下段:女性) (H30年度から合算で40～74才が対象)	%	目標		50.0 44.0	52.0 45.0	43.0	43.0	43.0	43.0	↘	
			実績	47.8 40.6	45.7 43.8	44.2 39.4	37.8	38.3				
66	凧揚げ・地引網参加者数【再 掲】	人	目標		1,150	1,200	1,200	1,200	1,300	1,300	↗	
			実績	1,132	1,073	1,150	1,300	1,300				
66	町民運動会参加団体数【再 掲】	団体	目標		41	42	42	43	43	44	↘	
			実績	41	36	39	38	36				
67	在宅介護手当・介護用品支給 利用者数	人	目標		25	25	25	25	25	25	→	
			実績	25	35	29	35	25				
68	認知症サポーター養成講座 受講者数	人	目標		150	150	450	270	270	270	↘	
			実績	390	188	441	268	261				
68	認知症カフェ参加者数	人	目標		50	50	550	580	450	450	↘	
			実績	47	76	499	447	345				
69	地域ボランティア登録者数【再 掲】	人 (累)	目標		100	100	100	100	100	100	↗	
			実績	103	124	135	141	151				
69	シルバー人材センター登録者 数	人 (累)	目標		255	259	264	269	250	250	↘	
			実績	255	263	228	218	213				

④128の施策ごとの「成果と課題」

65 健康で長生きできる環境づくりの推進	<p>特定健診の受診率(65～74歳)は、令和2年6月月例報告からの暫定値であり、目標値より低くなっているものの、この世代は若い世代(40～64歳)よりは、健診を受けるという健康意識が定着している。また、運動習慣については、60代からは運動習慣のある割合が高い傾向にある。運動の効果や継続の大切さについて啓発や事業を実施していく。</p> <p>軽スポーツの推進として、パークゴルフ・ペタンクを推進しており、大会への参加者は119人で、高齢化が進みゲートボール大会が中止となり前年度より参加者数が大幅に減少し、目標にも至らなかった。愛好者団体への呼びかけを行っているが、それに代わる軽スポーツを検討する。</p> <p>口腔機能向上教室および高齢者食生活改善栄養教室参加数については、111人の参加で目標値を上回っている。平成29年度から脳健康教室での定期的な指導がなくなり減少していたが、その後受講者教室での定期的な開催により増加傾向になっている。</p>
66 世代間交流を楽しみ生活文化の伝承ができる地域社会づくりの推進	<p>三世代での交流イベントへの参加はいきがいを感じることでできる活動である。地引網大会の開催が困難となっているが、各期別の取組と重複するが、凧揚げ、町民運動会への参加者数および団体数はほぼ目標どおりだった。全ての世代において参加者が増加すること、高齢期については自治会等を通じてPRしていく。</p>

<p>67 親・子・孫で支える地域社会づくりの推進</p> <p>高齢者のボランティア活動への積極的な参加を促すことで自身の健康増進および介護予防を推進し、生き生きと元気に暮らすことができる地域社会をつくることを目的として、介護ボランティア制度を実施しており、参加者は588人で目標値には至らなかった。受入施設側に制度の周知が十分にできておらず、実績の報告が上がってきていない現状がある。また、高齢化等でボランティア活動者が少なくなり、施設側のニーズに対応できない状況もある。今後は新たなボランティアの発掘と、受入側への制度周知が課題となっている。</p> <p>在宅介護手当・介護用品支給利用者数については、25人の利用者で目標値に達している。介護対象者と介護者それぞれの課税状況が支給対象の要件にあるため対象者全体の把握は困難であるが、要介護3～5の方はケアマネージャーが関わっているため、対応漏れがないように連絡会等で情報提供をしている。</p>
<p>68 配慮が必要な人、誰もが安心して生活できる地域社会の形成支援</p> <p>高齢者が不安なく生活できる環境づくりとして、認知症サポーター養成講座を開催した。令和元年度は、261人と目標値を少し下回った。養成講座は12年目であり、3月末現在で累計3,358名が受講している。今後も地域での見守り体制づくりのために事業所等地域に向けて事業の周知をしていく。また、受講後活動できるキャラバンメイトの固定化が課題となっている。</p> <p>また、認知症カフェも直営と委託で3カ所実施しているが、345名の参加で目標値に至らなかった。直営カフェにはケアマネージャーの参加もあり周知には務めているが、参加者の高齢化や固定化が課題となっている。今後も、ケアマネージャーや社会福祉協議会、民生委員協議会などの関係機関と連携し、事業の普及に努めていく。</p>
<p>69 地域で支え合いがあり、香南市に住んで良かったと思える環境づくりの推進</p> <p>高齢者の自主活動を支援する取組として、いきいきクラブ事業に取り組んでおり、延5,275人が事業に参加したが、目標とする参加者には至らなかった。運営支援の継続と新規地区への支援に取り組んでいく。実施地区の代表者や運営ボランティアの高齢化により、活動の継続と受け皿づくりが課題となっている。</p> <p>また、定年後の再就職支援としてシルバー人材センターへの登録を呼びかけており、令和元年度の登録者数は213人。近年、65～70歳といった年齢が現役で仕事をしているのが現状であり、入会してもハローワークで給料等安定した仕事が見つからずと辞めてしまう傾向にある。広報へのチラシを挟み込み、シルバー人材センターとの共同で研修を開催したが、会員数は微減となっている。</p> <p>※いきいきクラブ・・・ 地域において介護予防に資する活動拠点の場を提供し、ボランティア等の人材の育成並びに介護予防に資する地域活動を行う組織。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>介護ボランティアや地域ボランティアなどは目標値を下回った。高齢化等でボランティア活動者が少なくなり、施設側のニーズに対応できない状況もある。今後は新たなボランティアの発掘と、受入側への制度周知を行っていく。また、地域交流や世代間交流のイベントの開催においては、目標どおりの参加があり、今後も参加者の増加に向けて一層取り組んでいく。</p> <p>特定健診等の受診や運動習慣については、目標値に達しておらず、引き続き市民の利便性を考慮した実施に努め、運動の効果や継続の大切さについて啓発や事業を実施し、健康で長生きできる環境づくりを進める。</p>

施策大綱名	第4章 都市基盤
基本施策名	16. 公園・緑地と景観形成、環境保全の整備

①施策の基本目標

市域は主に山林を有する「自然環境・山林ゾーン」と農用地等の「農業ゾーン」、市街地が集中する「市街地ゾーン」の大きく3つの地域構成に分類されます。
市民が安全で豊かな、恵まれた環境のなかで生活を営むためには、それぞれの地域で自然環境が守られることが不可欠であり、その自然環境の保全と活用に努め、人と自然の調和の取れたまちづくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
70	物部川流域の育成林の整備面積(水源の森整備事業)	ha (累)	目標		10	15	20	25	30	35	↘	
			実績	5	10	15	22.8	22.8				
70	遊休農地面積(平成30年度計画策定)	ha	目標		減少	減少	減少	減少	減少	減少	↗	
			実績	50	45	42	48	47				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
70	農地パトロールの実施回数	回	目標		90	90	108	108	108	108	↘	
			実績	90	90	90	100	98				
71	都市計画マスタープランの策定	-	目標		未策定	策定	-	-	-	-	-	
			実績	未策定	未策定	策定	-	-				
71	公園・緑地などの環境整備	回	目標		150	150	150	150	150	150	↗	
			実績	150	170	174	173	174				

④128の施策ごとの「成果と課題」

70 自然的土地利用と都市的土地利用の推進	<p>物部川流域の育成林の整備として水源の森整備事業(搬出間伐)を行っているが、平成30年7月豪雨で被災した県道222号(奥西川岸本)線の復旧が完了しなかったため、対象森林で緊急間伐総合支援事業による間伐が実施できなかったため未実施となった。 農地パトロール実施回数を98回実施し、目標値には至らなかったが、遊休農地の実態把握及び発生防止等に努めた。 また、遊休農地の面積は令和元年度は微減であった。高齢化等により耕作を放棄する農家も今後増加することが予測され、関係機関と協力して新規就農者の掘り起こしや後継者の育成を図る必要がある。</p>
71 緑豊かな都市空間の創出	<p>平成28年度から取り組んでいた『都市計画マスタープランの策定』については、平成29年度に策定を行っている。都市計画マスタープランでは、まちづくりの理念や都市計画の目標とあわせて、全体構想・地域別構想を定めており、今後はマスタープランにそった、都市空間を創出していく。 公園などの環境整備として、除草作業や公園遊具の修繕等を行った。今後も、環境整備を図り、市民に親しみやすい、市民が集まる公園整備に努めていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>都市計画マスタープランの策定により、香南市の土地利用の基本的な方向性が定められた。今後は、人と自然の調和の取れたまちづくりを目指して、マスタープランに基づき事業の計画と実施を図っていく。 適正な自然的土地利用が図られるよう、育成林の整備や耕作放棄地の解消に努め、一定の成果は得られているが、自然環境や耕作地の荒廃を防ぐため、さらなる対策を図っていく。</p>

施策大綱名	第4章 都市基盤
基本施策名	17. 水質保全等活用保全の推進

① 施策の基本目標

水資源は、市民の生活にとっても、また、動植物の生態系や地盤、土地などの形成にとっても大切な自然資源です。その水資源は、河川、ため池、地下水が主なものであり、その利用は、生活用水、農業用水、工業などの産業用水が主なものとなっています。
 処理や利活用しているそれら水資源は、降った雨が元になっていることから降雨に対する考え方を明らかにし、その処理や利活用、保全に努めます。

② 基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
73	汚水処理人口普及率	%	(累)	目標	93.7	94.2	94.9	95.6	96.3	97.0	↘	
				実績	93.2	93.9	90.2	94.8	93.6			
73	合併浄化槽設置補助基数	基		目標	80	80	80	80	80	80	↘	
				実績	69	66	63	72	72			

③ 基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
72	農業用水路の修繕に関する補助件数	件		目標	20	20	20	20	20	20	↗	
				実績	16	25	25	17	29			
72	国・県への河川整備要望行動	回		目標	3	3	3	3	3	3	↗	
				実績	3	3	3	4	4			
72	工業用水条件整備事業箇所整備進捗率	%	(累)	目標	90.0	93.0	95.0	100.0	100.0	100.0	↘	
				実績	87.0	88.0	90.0	91.8	92.0			
73	農業集落排水の加入率	%	(累)	目標	60.0	61.0	61.0	62.0	62.0	63.0	↗	
				実績	59.9	61.5	60.6	62.9	64.6			
73	簡易水道施設の更新件数	件		目標	5	5	統合	2	統合	統合	→	
				実績	11	7	6	未統合 ₂	2			
73	汚水処理区域整備面積	ha		目標	3.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0	↘	
				実績	5.0	1.2	6.2	0.0	0.0			

④ 128の施策ごとの「成果と課題」

72 治水・利水整備の促進	水路(青線)の修繕に関する補助件数は目標の20件に対し、29件の実績があった。国・県への河川整備要望行動については目標3回に対し、4回行い、今後も継続して要望していく。 また、工業用水条件整備事業の整備進捗率は、目標値には至っていないが、ほぼ計画どおり事業は実施できている。
73 生活関連水の処理の整備	汚水処理人口普及率は93.6%で目標値には至っていないが、ほぼ計画どおりとなっている。また、合併浄化槽の補助基数は72基となり、目標には至っていないが、申請のあったものについては補助できている。 農業集落排水の加入率については目標値を上回り、こらもほぼ目標どおりとなっている。簡易水道施設については、平成30年度統合の予定だったが、本年度も2件の更新を行った。令和2年度に統合する。

⑤ 基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
B	<p>水資源の確保の第1歩として、水路や河川の改修が必要不可欠であり、改修や要望活動は計画以上に行った。引き続き、補助や要望行動に取り組んでいく。</p> <p>汚水処理人口普及率は、平成29年度に公共下水道事業汚水処理区域の整備区域が広がったため普及率が低下することとなったが、令和元年度は目標値どおりとなった。また、合併浄化槽の設置補助も目標には至っていないが、申請分についてはすべて補助を完了した。</p> <p>水道事業についてはH30年3月に策定した水道事業の経営戦略をふまえ、今後、香南市水道事業基本計画(老朽施設対策及び地震対策計画など含む)を作成し、良好な水道水の安定供給を図っていく。</p>

施策大綱名	第4章 都市基盤
基本施策名	18. 交通網体系の整備

①施策の基本目標

豊かな自然に恵まれた市域で、元気で活力ある市民生活や市民活動が営まれるためには、交通や物流あるいは人と人との交流を支える骨格交通網が不可欠となります。
そのため、人口規模や産業規模に見合った道路網計画や公共交通などを構築する必要があり、幹線道路や生活道路を含めた道路網の整備や公共交通サービスの充実を図ります。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
75	市営バス利用者数	人	目標		38,500	39,000	40,000	40,000	40,000	40,000	↘	
			実績	38,066	39,287	38,369	35,862	35,238				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
74	緊急輸送路・避難路としての橋梁整備箇所	橋	目標		2	2	2	2	1	1	↘	
			実績	2	0	1	1	0				
74	老朽化・損傷に対する市道修繕箇所	箇所	目標		12	12	12	12	12	12	↗	
			実績	12	60	64	77	75				
75	ごめんなはり線利用者数(市内5駅の乗車数)	人	目標		-	-	-	-	-	-	↗	
			実績	343,718	325,969	329,505	334,895	335,105				

④128の施策ごとの「成果と課題」

74 道路網の整備	<p>緊急輸送路・避難路としての橋梁整備については、令和元年度については整備には至っていない。橋梁については、平成30年度は野市町の佐古川橋の整備を行った。 市道の老朽化・損傷については、小規模のものまで含めると75箇所の修繕を行った。</p>
75 公共交通の充実	<p>市営バスについては、3年に1度タイヤの見直しを行っており、直近では平成29年10月に改正を行った。見直しにおいては、利用者アンケートやヒアリング調査を実施し、路線と時刻表の整理を行った結果、別役から奈良地区は予約式運行を継続し、羽尾地区では学校への通学便の3便以外をデマンド運行に設定している。 市営バスの利用者数は、35,238人と昨年度より減少しており、H28年度以降減少傾向である。改正に伴い利用者数が減少した路線・停留所があることなどの影響が考えられるが、市営バスに関する情報発信や利用促進活動を積極的に行い利用者増を図る必要がある。 ごめんなはり線については、毎年の目標値は定めていないものの、ごめんなはり線活性化協議会の集計データ(5駅の乗車数)を見ると、利用実績は増えており、335,105人であり利用者が増加している。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p> <p>幹線道路等の新設や緊急輸送路・避難路としての橋梁の整備については整備に至っていない。老朽化・損傷に対する修繕については必要に応じて実施した。 公共交通サービスについては、前年度に比べて若干利用者は減少となったが、概ね目標どおりであった。利用者が新ダイヤに慣れるよう地区での市バス乗り方講習や聞き取り調査を実施し、より多くの方に利用していただけるよう、今後もニーズに沿った運行を心がける。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	19. 保幼小中連携の推進

①施策の基本目標

保育所、幼稚園、小中学校が連携し、0歳から15歳までの15年間を通して、子どもの発達段階に応じた体系的な教育を進めることで、コミュニケーション能力、規範意識及び自尊感情等を身に付けた子どもたちを育成するとともに、親の子育てを支援していきます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
76	交流活動を組織として位置づける (よくできた、できたの回答割合)	%	目標	/	55.0	60.0	60.0	70.0	70.0	80.0	-	
			実績	31.0	31.0	41.0	52.0	-	-	-		
76	交流活動の際、育てたい力の共通理解 (よくできた、できたの回答割合)	%	目標	/	55.0	60.0	60.0	70.0	70.0	80.0	-	
			実績	51.0	51.0	56.0	56.0	-	-	-		

※教職員を対象とした連携についてのアンケート調査より

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
76	連携担当会の実施	回	目標	/	2	2	2	2	2	2	→	
			実績	2	2	2	2	2				
76	小学校教諭による保育士体験の実施	校	目標	/	8	8	8	7	7	7	→	
			実績	8	8	8	8	7				

④128の施策ごとの「成果と課題」

76 保幼小中連携(一貫)教育の推進
 教職員を対象とした連携のアンケートを実施しており、「交流活動を組織として位置づける」「交流活動の際、育てたい力の共通理解」が「よくできた、できた」と回答した数値の数値目標設定していたが、令和元年度のアンケート項目よりこの項目が削除されたため実績値なしとしている。令和2年度よりこの内容に変わる指標を設定することとしている。
 連携担当会は予定通り2回実施できた。また、小学校教諭による保育士体験は全ての小学校で実施できた。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p> <p>指標としていた教職員を対象とした連携についてのアンケート項目が令和元年度より削除されたため実績値なしとしている。令和2年度よりこの内容に変わる指標を設定することとしている。 連携担当会や保育士体験の実施以外にも「香南市保幼小中連携カリキュラム」及び「香南市保幼小中連携(一貫)プログラム」や香南市保幼小中連携子育て・教育推進事業など、連携に関する会議や事業の実施はできている。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	20. 家庭や地域と連携した教育の推進(チーム学校の取組)

①施策の基本目標

家庭生活の困窮等で厳しい環境にあり、学力や基本的な生活習慣の未定着など、子どもたちを取り巻く負の連鎖環境を教育によって断ち切ることをめざします。不登校の児童・生徒に対しては、関係機関と連携を図りながら、改善に向けて取組を推進します。

家庭や地域社会が、子どものしつけや基本的な生活習慣の確立等の教育基盤となる役割をしっかりと担うとともに、子どもを守り育てる地域住民の連帯感を再構築し、子どもたちが家庭や地域の豊かな愛情のなかで安心して成長できる地域コミュニティの実現をめざします。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度R3	目標との比較	達成状況(R3に評価)
77	子育て親育ち講演会への参加者数	人	目標		600	610	620	630	640	650	↘	
			実績	596	687	442	549	545				
79	不登校児童・生徒の割合(小学校)【再掲】	%	目標		0.95	0.90	0.80	0.70	0.60	0.50	↘	
81			実績	1.31	0.95	1.31	0.62	1.05				
79	不登校児童・生徒の割合(中学校)【再掲】	%	目標		6.38	5.00	4.50	4.00	4.00	3.50	↘	
81			実績	5.03	6.25	5.05	5.41	4.86				
80	こうなんファミリーサポートセンター会員数(平成28年度開始)	人(累)	目標		30	50	80	110	90	100	↘	
			実績	-	42	56	74	86				
80	地域学校協働本部設置校数【再掲】	校(累)	目標		5	6	7	8	11	11	↗	
			実績	4	5	6	7	11				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度R3	目標との比較	達成状況(R3に評価)
77	香南市チャレンジ塾の開設数	教室	目標		2	2	2	4	4	4	↘	
			実績	2	2	2	2	2				
78	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標		70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	↘	
			実績	50.0	100.0	100.0	50.0	57.1				
78	言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標		85.0	85.0	85.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	75.0	100.0	100.0	62.5	14.3				
80	市のHP(子育て情報サイト)のアクセス数【再掲】	回	目標		3,000	4,000	5,000	6,000	9,000	9,000	↗	
			実績	着手	1,826	4,328	6,031	9,063				
80	コミュニティ・スクール設置数	校	目標		0	0	1	3	3	12	→	
			実績	0	0	0	1	3				
81	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(3歳児)	%	目標		98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	↘	
			実績	95.3	94.7	96.6	93.9	96.5				
81	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(小学6年生)	%	目標		88.0	89.0	90.0	92.0	94.0	96.0	↗	
			実績	87.3	97.3	85.9	96.6	98.1				
81	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(中学3年生)	%	目標		85.0	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0	↗	
			実績	83.7	83.7	82.7	92.0	93.4				
82	放課後児童クラブの利用者数【再掲】	人	目標		340	385	385	385	385	450	↗	
			実績	336	362	375	370	390				
82	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の指導員等研修会実施回数	回	目標		6	6	6	6	6	6	↗	
			実績	6	6	6	5	11				

④128の施策ごとの「成果と課題」

77 厳しい環境にある子どもたちへの支援

子育て親育ち講演会として、保育所・幼稚園ごとに企画した講演会と香南市全体の就学前の子どもを持つ保護者を対象とした講演会を実施した。参加者数は545人で目標数には至っていないが、参加者の家庭教育力の向上が図れた。保護者の参加数を増やせるよう、就学前の子育て世代にとって関心、ニーズの高い内容の構成と周知についても工夫が必要である。

香南市チャレンジ塾は2教室開催したが目標値には至らなかった。学習機会を設けることにより、学習内容だけでなく学習習慣定着へのきっかけづくりや進路への意欲づけにつながっている。希望者が少なく、2教室開催となっており入塾希望者を増やすことが課題となっている。そのため、各中学校からの声掛けを徹底する。

78 学校の組織マネジメント力の強化	<p>学校経営計画をもとに、取組状況や成果を点検・検証し外部の専門員や地域の人材の力を活用しながら取組を推進している。また、全教職員が教科の壁、学級や学年の壁を越えて相互に協議し、組織的な授業改善や生徒指導を行うことや、学級経営の状況や課題、または学力傾向や課題について、全小中学校において、全教職員の間で共有し組織的に取り組んでいるが、アンケート結果においては、目標値に達していない。「どちらかといえばしている」というこの弱肯定を強肯定の回答へつなげる取組が必要である。各学校とも全教職員の間で、状況や課題について共有しているはずだが実績数値が高くなっていない。教職員により一層共有意識を持たせることが課題である。</p>
79 不登校の改善	<p>保育所・幼稚園・学校と教育支援センター「森田村塾」、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療や福祉等の関係機関と連携を図り、子どもや保護者に対する支援の充実を図った。また、「森田村塾」では、学校との連携を密にし、学校生活への復帰を支援したり、各学校においては、児童生徒理解を深め、温かい学級づくりに取り組めるようアンケートやいじめ調査等を実施したりと、継続的に取組を進めている。</p> <p>不登校児童生徒の発生率について、中学校においては昨年度より減少し4.86%であった。すべての中学校で「魅力ある学校づくり調査研究事業」を実施し、新規の不登校児童が出ないよう未然防止の取り組みを行った結果、不登校生徒数は減少傾向にある。しかし、依然として数値は高いので、継続的な取組が必要である。小学校においては、1.05%と増加している。小学校においても「魅力ある学校づくり調査研究事業」を実施し、新規の不登校児童が出ないよう未然防止の取り組みを行ったが、未だ不登校児童数に課題が見られる。引き続き、各学校で同僚性を生かした継続的な取組が必要がある。</p>
80 子どもが育ちやすい地域コミュニティの再構築	<p>平成28年度からこうなんファミリーサポートセンター事業を実施し、子育てを住民同士が協力・支援していく体制を進めており、会員数は86人と昨年度より増加しているが、目標数には達していない。新たな会員の登録に向けて通信の作成や一層事業の啓発に取り組む。</p> <p>地域学校協働本部は本年度の目標も達成し11校すべての小中学校で設置できた。協働本部では、地域の人材を積極的に活用し、保護者や地域の方とあいさつ運動や交通指導に取組、地域の見守り体制の強化に繋がっている。今後も、地域学校協働本部によるボランティア活動を見守り体制に活かし、また地域ボランティアを募集し、住民による学習支援・活動支援・見守り活動・地域活動への支援を呼びかける。</p> <p>平成28年度に開設した、子育て情報サイトへのアクセス数は9,063件あった。メルマガ配信内容に「エプロンだより」と「すこやか通信」を入れることで登録者数及びアクセス数が増加している。今後も情報内容を多くの方に見ていただくよう努める。今後は、子育て支援の各種行政サービスや地域の子育てに関する情報を冊子にまとめた「香南市子育てガイドブック」のリニューアルを行う。</p> <p>コミュニティ・スクールの設置については、予定通り2校(赤岡中学校・野市小学校)が設置された。学校運営協議会、地域学校協働本部協議会、学校評議委員会など、目的と役割に応じた組織の調整が必要である。</p>
81 家庭の教育力の向上	<p>家庭教育学級や子育て講座などの開催や子育て支援センターやスクールカウンセラーなどの活動を通じて、家庭の教育力の向上や子育て相談・援助を行ってきたが、講演会への参加者及び不登校児童・生徒の割合は目標には至らなかった。</p> <p>毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、対象の内、3歳児が目標達成には至らなかった。生活チェックカードの取組をきっかけに、各年齢に継続した取組を行っていく。また関係課と連携を取りながら、パパママ教室や幼児健診等で朝食の大切さを啓発する。小学6年生・中学3年生においては目標値を達成している。各学校で教科場面での指導、保健指導、食育指導等の様々な機会を通して、実践に結び付けるようにし、各通信を活用し保護者にも継続し啓発を行っていく。</p>
82 放課後の子どもの生活・学習支援の充実	<p>児童クラブを5つの小学校区で実施し、共働き家庭等の児童(1~6年生)を放課後から18時(一部18時30分)まで預かり、令和元年度は390人の利用があった。安定的な放課後児童支援員の確保と野市小学校及び香我美小学校では定員を超える受入を行っているにも関わらず、待機児童が発生しているため、その解消を図るために、新たな施設整備が必要である。年間を通じて学習支援者を配置し、継続的に学習をサポートすることで、放課後の学習習慣が定着している。</p> <p>市及び県主催の11回の研修会に参加した。支援員及び補助員が職務を遂行する上で必要な知識及び技能の習得と、その実践の基本的な考え方や心得を学ぶことができた。今後も継続して研修会を実施・参加していく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>学校の組織マネジメント力は、外部の専門員や地域人材を活用しながら取組を推進し強化できているが、不登校の改善や朝食の摂取率の向上など、数値としては、まだまだ充分な成果に至っていない。不登校の改善は、すぐ効果が出るものではないが、引き続き、学校や関係機関と連携を図りながら、全ての子どもが安心できる環境づくりに努めていく。</p> <p>すべての学校に地域学校協働本部が設置できた。来年度以降は、すべての学校へのコミュニティ・スクール設置を目指し、地域と学校の連携・協働を一層進めていく。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	21. これからの社会を生き抜く力を育む教育の推進

①施策の基本目標

「香南市乳幼児教育政策プログラムⅡ」に基づき、生涯にわたる人格形成の基礎となる豊かな心情・意欲・態度を育むための保育・教育活動を保護者と連携して推進します。
 子どもたちに生きて働く「知識・技能」を習得させ、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を推進するため、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善に努めます。
 また、生涯にわたって健康でいきいきとした生活をおくるため、家庭や地域と連携して就学前からの望ましい生活習慣、食習慣、運動習慣を確立するための健康教育や障害のある児童生徒の能力や可能性を十分に伸ばすために、関係機関と連携を図りながら、一人ひとりの発達や障害の種別等に応じた特別支援教育を推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
83	子育て支援センター利用者数	人	目標	/	5,200	5,800	6,400	7,000	10,800	10,800	↗	
			実績	4,811	4,542	8,171	8,436	11,175				
84	ICT機器を活用した校内授業研修の実施	%	目標	/	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	
			実績	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0				
87	いじめが解消した割合 (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	70.0 90.0	70.0 90.0	75.0 90.0	80.0 90.0	90.0 92.0	90.0 92.0	↗ ↘	
			実績	67.3 90.9	64.1 66.7	79.1 77.0	96.8 63.9	93.4 49.4				
88	肥満傾向率(小学5年生)	%	目標	/	12.0	11.8	11.5	11.1	11.0	10.0	↘	
			実績	12.5	10.7	8.9	11.0	11.5				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
83	市職員研修及び園内研修の実施回数	回	目標	/	52	52	52	52	52	52	↗	
			実績	52	44	62	52	63				
84	言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で共有している学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)【再掲】	%	目標	/	85.0 75.0	85.0 75.0	85.0 75.0	100.0 100.0	100.0 100.0	100.0 100.0	↘	
			実績	75.0 50.0	100.0 100.0	100.0 100.0	62.5 50.0	14.3 25.0				
84	言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいる学校の割合(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	50.0 80.0	60.0 80.0	70.0 85.0	80.0 90.0	90.0 95.0	100.0 100.0	↗	
			実績	37.5 75.0	37.5 75.0	25.0 50.0	50.0 75.0	100.0 100.0				
85	自分にはよいところがあると思うか(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	80.0 70.0	↗ ↘	
			実績	77.7 61.1	80.4 67.8	76.5 65.8	88.8 79.8	88.5 63.6				
85 86	将来の夢や目標を持っているか(上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	95.0 85.0	95.0 85.0	95.0 85.0	95.0 85.0	90.0 77.0	95.0 77.0	↘	
			実績	89.4 79.1	89.4 74.1	72.1 75.0	88.4 74.7	88.8 76.8				
87	人権教育について計画的に実施することができた学校数(割合)	%	目標	/	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	
			実績	100.0	100.0	100.0	100.0	100				
88	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(3歳児)【再掲】	%	目標	/	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	↘	
			実績	95.3	94.7	96.6	93.9	96.5				
88	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(小学6年生)【再掲】	%	目標	/	88.0	89.0	90.0	92.0	94.0	96.0	↗	
			実績	87.3	97.3	85.9	96.6	98.1				
88	毎日朝食を食べる児童生徒の割合(中学3年生)【再掲】	%	目標	/	85.0	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0	↗	
			実績	83.7	83.7	82.7	92.0	93.4				
88	地域人材を活用しての料理教室などの取組を実施した学校数(割合)	%	目標	/	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→	
			実績	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0				

89	個別の指導計画書を作成した保幼小中の割合(上段:保幼・中段:小学校・上段:中学校)	%	目標	100.0 70.0 50.0	100.0 80.0 70.0	100.0 90.0 80.0	100.0 100.0 90.0	100.0 100.0 100.0	↘
			実績	100.0 60.0 28.3	100.0 80.4 29.3	100.0 60.6 30.1	100.0 86.0 36.8	100.0 92.5 88.6	
89	スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引きつぎの実施校数(割合)	%	目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	→
			実績	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

④128の施策ごとの「成果と課題」

83 就学前教育の充実	<p>子育て支援センターの利用者数は、児童・保護者あわせて目標を上回る11,175人(延)の利用があり、子育てに関する情報提供や相談支援が図れた。総合子育て支援センターは、愛称「にこなん」として、令和元年7月に開所した。妊婦や0歳から就学前の子どもと保護者等を対象に、育児相談や交流の場の提供、子育て関連情報の提供などの子育て支援を行っており、児童と父親が一緒に利用するケースが増えるなど順調に伸びている。</p> <p>職員研修や園内研修の実施も、63回と予定通り開催した。年間を通した研修会実施により、研修を積み上げ、園内での成果と課題を共有し、組織で保育を作る意識の高まりと保育者の質の向上につながった。引き続き主体的な研修の実施を行いながら、保育・教育の質の向上につなげていく。</p>
84 確かな学力の育成	<p>ICT機器の導入については、すべての学校で導入し、授業改善に向けて取り組んでいる。小学校においてはプログラミング教育の導入準備もあり、使用頻度の向上がみられた。ICT活用の良さに気づき、各所属等で活用が広がっており、取組は活発になっている。今後、ICT機器の使用に不慣れな教職員もいるので、活用例を提示し、少しでも研究授業の中で活用できるようスキルアップさせていくことが必要となっている。</p> <p>言語活動について国語科だけでなく、どの教科でも言語活動を取り入れた授業の展開を意識して取り組むことができ目標値を達成した。言語活動の内容についても、研究が深められるようになった。</p>
85 豊かな心の育成	<p>学力・学習状況調査「児童・生徒質問紙調査」の結果では、「自分にはいいところがあると思うか。」の質問に対しては、小学校では目標値を上回り、中学校では目標値には至っていない。「褒める」「認める」「励ます」の視座に立ち、全ての小中学校で、受容的で共感的な子どもの理解を進めるとともに、子ども相互が認めあえるような取組をおこなっている。今後も未来にかがやく子ども育成型学校連携事業・魅力ある学校づくり調査研究事業等を活用し、自尊心を高めていく。</p> <p>「将来の夢や目標を持っているか。」の質問に対しては、共に目標値を下回っており、職場体験や社会に貢献する意識を持たせる取組を行っているが、まだまだ自分に自信が持てない子どもたちが多く、今後も自尊心や規範意識の向上に向けて、将来の夢と自ら語れる子どもの育成へつなげていく。</p>
86 キャリア教育の推進	<p>体験的な職業理解、職場体験学習などを通じて、地域社会を支える仕事や産業についての理解を深めてきた。また、子ども議会の開催などによりまちづくりについて考え、社会参画への態度や意欲を高める取組を行った。しかし、全国学力・学習状況調査(児童・生徒質問紙調査)の結果では、「将来の夢や目標を持っているか。」の質問に対して、小学校・中学校ともに目標を下回っている。職場体験や社会に貢献する意識を持たせる取組を行っているが、まだまだ自分に自信が持てない子どもたちが多く、今後も自尊心や規範意識の向上に向けて、将来の夢と自ら語れる子どもの育成へつなげていく。</p>
87 人権教育の推進	<p>全学校において人権教育年間計画を作成し、人権を基盤とした学校づくりに取り組むことができた。しかし、いじめが解消した割合は、小学校では目標を上回ることができたが、中学校においては目標達成には至っていない。</p> <p>互いを認め合い支え合う人間関係づくりや、人権に関わる課題の解決をめざした一人ひとりを大切に人権教育に取組み、いじめを解消するよう取り組んでいく。いじめの解消のためには、早期発見がカギとなり教員はいじめに対するアンテナを張り、子ども間の変化を敏感にキャッチできるようにさらに意識を高めていくことも課題である。</p>
88 健やかな体の育成と健康の増進	<p>肥満傾向率は、小学5年生を対象としており、各校で工夫した取組が推進されているが、昨年度より増加し、目標を下回っている。日常生活の中に体を動かす機会を設ける取組を図っており、体育・保健体育科の授業において、運動量が確保された授業づくりを目指す。</p> <p>「早ね 早おき 朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着を図る取組をはじめ、各校で工夫した取組を行っている。毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、平成30年度に引き続き3歳児は目標の達成には至っていない。3歳児には生活チェックカードの取組をきっかけに、小学6年生、中学3年生においては、教科場面での指導、保健指導や食育指導等の様々な機会を通して、児童生徒に朝食摂取の意義を伝え、実践に結びつけるようにする。また学校だよりや保健だより等を使い、朝食の大切さを保護者に伝えて、継続的な啓発を行っていく。</p>
89 特別支援教育の推進	<p>個別の指導計画を保育所・幼稚園は100%作成し、一人ひとりの教育的ニーズに対応した特別支援教育を進めた。小学校・中学校は目標値に達しなかったが、特別支援教育アドバイザーの巡回訪問や校内支援会の実施、各種相談事業を通じて、作成支援・指導を行ってきた成果が着実に表れてきており昨年度を大きく上回る数値となった。</p> <p>スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引きつぎは全ての学校で実施でき、関係者間の情報および認識の共有化、教育支援の円滑な意向ができた。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>豊かな心情・意欲・態度を育むための保育・教育活動を保護者と連携して取り組んでいるが、アンケート結果からまだまだ、将来の夢や目標を持っていない子どもたちが多く、今後も連携や授業改善に努めていく。いじめが解消した割合も、中学校については目標には至っていない、引き続き、互いを認め合い支え合う人間関係づくりや、人権に関わる課題の解決をめざした一人ひとりを大切に人権教育に取組、いじめを解消するよう取り組んでいく。</p> <p>子育てや教育の環境として、支援センターやICT機器の活用、職員研修・人権教育の実施などは充分図られており、今後も関係機関と連携しながら、一人ひとりの能力や可能性を伸ばす取組を図る。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	22. きめ細かな教育の推進

①施策の基本目標

教育課題の解決のために、保育や教育の専門的知識を一層深めるとともに、広く豊かな教養と実践的指導力を高めるなど、教職員の資質・指導力の向上に努めます。
 保育所、幼稚園、学校が地域の教育力を生かし、創意工夫した教育活動を展開することにより、保護者や地域から信頼される保育所、幼稚園、学校づくりを推進します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
90	授業の内容が良くわかると回答した児童生徒の割合(国語) (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	↗	
			実績	85.0 63.7	87.7 79.8	85.1 71.0	- -	94.1 68.1	70.0	70.0		
90	授業の内容が良くわかると回答した児童生徒の割合(算数・数学) (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	↗	
			実績	87.1 60.3	88.7 79.8	82.9 56.5	88.0 65.0	89.6 71.0	70.0	70.0		
91	地域学校協働本部設置校数 【再掲】	校 (累)	目標	/	5	6	7	8	11	11	↗	
			実績	4	5	6	7	11				
92	学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合 (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	↗	
			実績	86.4 72.9	89.7 78.7	84.3 75.4	91.7 85.9	91.0 71.8	80.0	80.0		

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
91	保育所・学校評議員連絡会 (中学校区)の開催数	校区	目標	/	2	2	3	4	4	4	↘	
			実績	2	2	2	2	1				
91	コミュニティ・スクール設置数 【再掲】	校	目標	/	0	0	1	3	3	12	↗	
			実績	0	0	0	1	3				
92	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合【再掲】 (上段:小学校・下段:中学校)	%	目標	/	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	↘	
			実績	50.0 75.0	100.0 100.0	100.0 100.0	50.0 75.0	57.1 50.0				
93	不登校児童・生徒の割合(小学校)【再掲】	%	目標	/	0.95	0.90	0.80	0.70	0.60	0.50	↘	
			実績	1.31	0.95	1.31	0.62	1.05				
93	不登校児童・生徒の割合(中学校)【再掲】	%	目標	/	6.38	5.00	4.50	4.00	4.00	3.50	↘	
			実績	5.03	6.25	5.05	5.41	4.86				

④128の施策ごとの「成果と課題」

90 教職員の専門性・指導力の向上	<p>各小中学校の学校改善プランに基づく取組を指導・支援することで、授業研究を中心とした授業改善に取り組んだ。また、東部教育事務所と連携し学校改善プランを検証することでPDCAサイクルを意識した教育活動にも取り組んだ。</p> <p>学力・学習状況調査では、令和元年度については、国語においては小学校では目標を大きく上回っており、中学校についても目標に近い数値となっている。算数・数学においては昨年度より大きく上昇しており、さらに小中学校ともに目標達成でき、成果があらわれている。</p>
91 保育所・学校運営の充実	<p>地域学校協働本部は本年度の目標も達成し11校すべての小中学校で設置できた。協働本部では、地域の人材を積極的に活用し、保護者や地域の方とあいさつ運動や交通指導に取組、地域の見守り体制の強化に繋がっている。今後も、地域学校協働本部によるボランティア活動を見守り体制に活かし、また地域ボランティアを募集し、住民による学習支援・活動支援・見守り活動・地域活動への支援を呼びかける。</p> <p>保育所・学校評議員連絡会は4回(4中学校区)を予定していたが、1回(1中学校区)でしか開催できなかった。連絡会では、市の教育方針や評価の視点等を確認し、情報交換や協議を行った。今後の取組として、4中学校区での開催が早期にできるように取り組んでいく。</p> <p>コミュニティ・スクールの設置については、予定通り2校(赤岡中学校・野市小学校)が設置された。学校運営協議会、地域学校協働本部協議会、学校評議委員会など、目的と役割に応じた組織の調整が必要である。</p>

<p>92 生徒指導の充実</p>
<p>学校経営計画をもとに、取組状況や成果を点検・検証し外部の専門員や地域の人材の力を活用しながら取組を推進している。また、全教職員が教科の壁、学級や学年の壁を越えて相互に協議し、組織的な授業改善や生徒指導を行うことや、学級経営の状況や課題、または学力傾向や課題について、全小中学校において、全教職員の間で共有し組織的に取り組んでいるが、アンケート結果においては、目標値に達していない。「どちらかといえばしている」というこの弱肯定を強肯定の回答へつなげる取組が必要である。各学校とも全教職員の間で、状況や課題について共有しているはずだが実績数値が高くなっていない。教職員により一層共有意識を持たせることが課題である。</p> <p>学力・学習状況調査では、学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合は、中学校では目標を下回っているが、小学校では目標に達することができた。国からの指定を受けて、香南市全体で新規不登校数の抑制のための取組「魅力ある学校づくり調査研究事業」と、市が実施する「中学校区連携事業」の取組を重ねて展開し、その成果が一定出ていると思われる。今後も、児童生徒の理解を深め、学校に行くのが楽しくなるような温かい学級・学校づくりに取り組んでいく。</p>
<p>93 教育相談・支援体制の充実</p>
<p>保育所・幼稚園・学校と教育支援センター「森田村塾」、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療や福祉等の関係機関と連携を図り、子どもや保護者に対する支援の充実を図った。また、「森田村塾」では、学校との連携を密にし、学校生活への復帰を支援したり、各学校においては、児童生徒理解を深め、温かい学級づくりに取り組めるようアンケートやいじめ調査等を実施したりと、継続的に取組を進めている。</p> <p>不登校児童生徒の発生率について、中学校においては昨年度より減少し4.86%であった。すべての中学校で「魅力ある学校づくり調査研究事業」を実施し、新規の不登校児童が出ないよう未然防止の取り組みを行った結果、不登校生徒数は減少傾向にある。しかし、依然として数値は高いので、継続的な取組が必要である。小学校においては、1.05%と増加している。小学校においても「魅力ある学校づくり調査研究事業」を実施し、新規の不登校児童が出ないよう未然防止の取り組みを行ったが、未だ不登校児童数に課題が見られる。引き続き、各学校で同僚性を生かした継続的な取組が必要がある。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>教職員の専門性・指導力の向上を図るために、各主任・担当会や話し合いなど授業研究を中心にした授業改善に取り組んでいる。「授業の内容が良くわかる」「学校に行くのは楽しい」と思う児童生徒の割合はほぼ目標を上回っており、香南市全体で新規不登校数の抑制のための取組「魅力ある学校づくり調査研究事業」と、市が実施する「中学校区連携事業」の取組を重ねて展開し、その成果が出ていると思われる。今後も、児童生徒の理解を深め、学校に行くのが楽しくなるような温かい学級・学校づくりに取り組んでいく。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	23. 安全な教育環境での教育の推進

①施策の基本目標

地震等による災害の発生時に、迅速かつ適切な対応ができる危機管理体制の整備・充実を図り、子どもたちの安全確保と保育所、幼稚園、学校の安全管理に努めます。また、子どもたちの事故や事件を未然に防止するための教育を推進します。校舎等の耐震補強や改修、教材の整備などについて積極的に取組、子どもたちが安心して学べる環境整備に努めます。また、教育施設等における遊具等の点検・補修等、施設の安全確保に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
95	小・中学校における非構造部材の耐震化	% (累)	目標	/	50	75	91.7	100	100	100	↘	
			実績	50	58.3	83.3	83.3	90.9				
95	小・中学校におけるトイレの洋便器化	% (累)	目標	/	75	75	100	100	100	100	→	
			実績	50	66.7	66.7	83.3	100				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
94	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100	100				
94	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育が実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100	100				
95	通園・通学路の点検を定期的実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100	100				
95	学校内の施設等に関する安全点検が定期的実施できた学校割合	%	目標	/	100	100	100	100	100	100	→	
			実績	100	100	100	100	100				

④128の施策ごとの「成果と課題」

94 防災教育等の推進	<p>年々防災教育に対する意識は高まっており、授業中・休み時間、登下校中など多様な状況で、すべての学校で年3回以上の避難訓練の実施が確実に出来ている。各学校の実態に適した、より実践的な訓練、高い当事者意識を持った児童生徒による避難訓練の実施に向け、発展継続させた取組が必要である。また児童生徒が当事者意識を持てるような防災教育、関係機関と連携した総合的防災教育の展開を目指す。</p>
95 保育所、幼稚園、小・中学校の環境整備	<p>非構造部材の耐震化を行っており、令和元年度は目標値には届いていないが、令和2年度末の野市小学校非構造部材耐震化工事終了に向け、計画に沿って取組む。トイレの洋便器化については、令和元年度に野市中学校の洋便器化が完了し、目標値に達した。保育・教育の場の環境整備の充実に努めることができた。 また、全ての学校において教職員による月1回の通学路の点検と、学校内の施設等に関する安全点検、補修等を実施し、安全確保に努めた。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>A</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>全ての学校で防災教育を中心とした取組が行われ、防災や交通安全についての意識が高まった。児童生徒が当事者意識を持てるような防災教育、関係機関と連携した総合的防災教育の展開を目指す。 小・中学校における非構造部材の耐震化は目標には至っていないが、予定通り取り組んでいる。小・中学校におけるトイレの洋便器化は目標を達成し、保育・教育の場の環境整備が図れた。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	24. 生涯にわたり豊かな心を育む環境づくり

①施策の基本目標

市民が生きがいを見つけ自己実現を果たすため、各年代に応じた様々な学習機会を提供するとともに、情報の提供・相談機能の強化、指導者の育成・人材活用を行います。
また、地域住民の交流・地域活動の場としての施設の整備改修を計画的に進めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
96 104	夏休み子ども教室の開催 (講座数)	講座	目標		22	23	24	25	25	25	↗	
	実績	21	25	25	25	29						
96 104	夏休み子ども教室の開催 (参加者)	人	目標		290	300	300	310	400	400	↗	
	実績	299	391	433	381	358						
97 103	生涯学習人材バンクの登録 者数	人 (累)	目標		0	50	100	150	200	200	↘	
	実績	0	0	1	22	28						
99	図書館の入館者数	人	目標		72,000	74,500	76,000	77,500	79,000	80,200	↘	
	実績	68,825	72,000	71,131	72,685	64,831						
99	図書館の貸出冊数	冊	目標		121,000	126,500	125,500	127,500	129,000	130,000	↘	
	実績	116,714	111,144	114,523	116,336	109,339						

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
96	三世代交流事業参加者数(風 揚げ)	人	目標		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	↗	
	実績	1,000	1,000	1,000	1,000	1,100						
97	いきいきセミナーの開催	講座	目標		4	4	4	4	4	4	→	
	実績	4	4	4	4	4						
98	各種教室の開催回数	回	目標		170	170	170	170	170	170	↘	
	実績	161	129	123	118	116						
98	各種教室の延べ参加者数	人	目標		4,550	4,580	4,610	4,640	4,670	4,700	↘	
	実績	4,530	4,253	5,132	3,327	4,292						
100	地区公民館等の利用者数	人	目標		41,000	41,200	41,400	41,600	41,800	42,000	↗	
	実績	40,622	44,552	39,957	40,507	52,739						
102	生涯学習課ホームページ更 新回数	回	目標		15	20	25	30	40	50	↗	
	実績	13	16	35	52	78						
103	読書ボランティア等登録者数	人	目標		100	100	100	100	100	100	↘	
	実績	76	86	93	93	93						
104	こどもよさこい参加者数	人	目標			100	100	100	100	100	↘	
	実績			91	98	85						
105	社会体育施設の障害者用トイレの整備	箇所 (累)	目標		5	6	7	8	8	8	↘	
	実績	3	3	4	5	5						

④128の施策ごとの「成果と課題」

96	ライフステージに対応した学習の充実(家庭教育・学校教育・社会教育)	<p>豊かな心を持ったたくましい子どもを育成するため、体験活動や地域間交流を実施している。 特に、夏休みには目標値を上回る29講座を開催し、それぞれの教室は定員オーバーになる状態で実施され、参加者も目標を大きく上回る358人が参加し、大変盛況だった。今後も3館連携し、ニーズを把握した上で、対象者や企画内容を考え、子どもの学習意欲を増進させる教室を開催していく。また、世代間交流事業として1月には新春風揚げ大会を開催し、目標を上回る参加者があった。今後も、継続して事業を実施していく。</p>
97	生きがいを得る学習機会の充実	<p>いきいきセミナーでは目標どおり4講座を開催できた。また、いきいきセミナーや高齢者学級、中央生活学級でのアンケート調査の実施などを通じて、市民の学習ニーズを把握し、多様な学習機会の提供に努めることができた。著名人の講演は集客力があるものの、アンケートでは専門的分野の講師の方が評価が高い。今後もそのバランスを考慮したうえで講師を選考し周知していく。 しかし、生涯学習人材バンクの登録者数は28名で、目標には大きく届いていない。制度認知が進んでおらず、個人においてもボランティア内容に合致するのかなどの不安などがあり、登録者が少ない状況である。今後も市の事業等で関わった方などへ登録を促していく。</p>

98 現代的課題に対応した学習機会の充実	<p>社会教育団体と連携を図り、趣味教養の各種教室の開催に努めたが、開催回数は目標の170回に対して116回、参加者数も4,640人の目標に対して、4,292人と目標値には至っていない。要因としては、例年通りの教室ではなく、ポイント(テーマ等)を絞った内容の企画の立案や受入定員の見直し、企画に対応した講師の確保が出来なかった等が影響したと考えられる。しかし、参加者の評価は良く、今後も人数の確保だけでなく、趣向を凝らした内容で取り組んでいきたい。</p>
99 学習施設の整備	<p>市民の教養、情報集の場として図書館機能の充実を図るため、古い図書を除去し新しい図書を配架するなど図書の充実を図っている。図書館の入館者及び貸出冊数について、前年度より大幅に減少しているが、一部改修のため閉館していたためである。読書活動のきっかけとしてまず図書館に足を運んでもらえるように各種イベント等を企画実践し、図書館利用者の拡大につなげていく。</p>
100 地域に密着した学習の場の提供	<p>公民館は地域のコミュニティー活動及び防災の拠点であり、中央公民館や市民館及び地区公民館等の連携強化に努めている。年度により館内での事業内容や天候により変動はあるものの、利用者は増加し大きく目標値を上回った。地域により高齢化や実践行事で公民館の利用状況は異なるが、今後も各地区の公民館運営協議会やまちづくり協議会と連携していく。</p>
101 生涯学習推進組織の整備	<p>市が進めるまちづくり自治会や協議会は徐々に設立され、生涯学習の推進は図れているが、具体的な生涯学習推進組織の整備には至っていない。公民館活動とまちづくり自治会・協議会の活動をリンクさせ、生涯学習推進組織の強化を図っていく。</p>
102 情報提供・相談組織の整備	<p>市広報、HP、市民館便り、まちづくり協議会便りなどを通じて事業・教室の周知を行った。また、生涯学習課のHPの更新についても、目標30回に対して、78回の更新を行った。図書新刊情報、各種教室、大会案内やスポーツ大会の結果などの情報を更新している。引き続き市民に分かりやすい内容で最新の情報に更新していく。</p>
103 指導者の育成・人材活用	<p>子どもの読書を推進するため、読書ボランティアの登録制度を実施している。養成講座も行っているが、登録者数は93人で目標には至っていない。活動内容としては野市図書館で毎週、幼児や小学生などに対して童話等の読み聞かせを行っており、読書への興味関心を高める重要な役割を担ってくれている。生涯学習人材バンクの登録者数は28名で、目標には大きく届いていない。制度認知が進んでおらず、個人においてもボランティア内容に合致するのかなどの不安などがあり、登録者が少ない状況である。今後も市の事業等で関わった方などへ登録を促していく。</p>
104 生涯学習を通じての地域づくり	<p>令和元年度は85人の児童が「こどもよさこい」としてよさこい祭りに参加した。子どもたちに知識や経験を培う機会を持たし、保護者や地域間のつながり強化を目的としており、他校の児童と協力し合うことや、練習を幾度も重ねて本番で踊りを披露する達成感を子どもたちは感じさせることができた。参加者が減少しつつあるが、学校やPTAへの呼びかけをより一層行い参加者を増やしていく。スタッフについては、近年は市職員から各団体や保護者へ移行している状態である。今後は、役割分担を明確にし今以上のスタッフを確保したい。夏休みには目標値を上回る29講座を開催し、それぞれの教室は定員オーバーになる状態を実施され、参加者も目標を大きく上回る358人が参加し、大変盛況だった。今後も3館連携し、ニーズを把握した上で、対象者や企画内容を考え、子どもの学習意欲を増進させる教室を開催していく。</p>
105 全ての人と共生する生涯学習の推進	<p>生涯学習施設のバリアフリー化に努めているが、目標には至らなかった。施設によっては利用者が少なかったり、既存トイレ内でスペースが確保できないなどの現状があり、すべての社会体育施設に障害者用トイレを整備するのは難しい。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>イベントやセミナー、各種教室など各年代に応じた様々な学習機会を提供でき、想定していた参加者も概ね確保できたが、生涯学習の人材バンクの登録者数も大きく目標を下回っているため、制度認知が進んでおらず、個人においてもボランティア内容に合致するのかなどの不安などがあり、登録者が少ない状況である。今後は文化サークルだけでなくスポーツ団体等にも周知を図り、引き続き、人材バンクへの登録を促していく。</p> <p>図書館の入館者及び貸出冊数について、目標には至らなかった。まずは図書館に足を運んでもらえるように各種イベント等を企画実践し、図書館利用者の拡大につなげていく。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	25. 文化の継承と振興

①施策の基本目標

多様な芸術・文化活動の支援を行うとともに、優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実します。
また、文化財センターを中心に市の歴史や文化財に触れる機会を充実します。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
106	市美術展覧会の入場者数	人	目標		1,300	1,350	1,400	1,400	1,400	1,500	↘	
			実績	1,264	1,304	1,249	1,169	1,089				
107	文化財ボランティアガイド登録者数	人(累)	目標		42	42	8	10	10	10	→	
			実績	42	42	42	8	10				
107	小・中学校への出前講座の実施回数	回	目標		2	2	2	3	4	5	↘	
			実績	2	2	1	2	1				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
106	公民館自主事業(舞台・演奏公演)の実施回数	事業	目標		6	6	6	6	6	6	↗	
			実績	6	6	6	6	7				
106	文化協会支援事業(文化祭・芸能大会等)	事業	目標		14	14	14	14	14	14	↘	
			実績	14	14	14	14	13				
107	文化財啓発事業の実施回数	回	目標		7	7	7	8	9	10	↘	
			実績	7	7	8	3	6				

④128の施策ごとの「成果と課題」

106 芸術・文化活動の推進	<p>文化関係団体との連携を図り、文化祭や美術展を開催し、芸術や文化の振興を図った。市美術展覧会の入場者数は目標には至らず、1,089人の入場者があった。</p> <p>公民館自主事業(舞台・演奏講演)は、コンサートやライブ、映画上映会など7事業を開催した。子ども向けも含め、市民のニーズを把握し、より関心の高い内容を企画し実施していく。また、文化協会支援事業(文化祭・芸能大会等)を13事業開催し、地域の文化活動を推進し、文化意識の高揚を図った。大会実行委員会、文化協会と連携して会場手配、当日の職員手伝いなどの支援を継続していく。</p>
107 郷土の歴史・文化遺産の保存と継承	<p>文化財ボランティアガイドは計画策定時は42人であったが、「文化財ボランティア養成講座」受講生を指標とし、新たに設定を行った。令和元年度は、養成講座を開催し2人の新規登録があり、累計10人の目標値へ達した。今後は、安岡家一般公開が令和2年度から開始するため、実働できる人材の育成に努めていく。</p> <p>郷土の歴史文化遺産の継承を目的に、小・中学校への出前講座を実施しているが、令和元年度は1回の開催で目標値には至らなかった。市内の文化財や戦争遺産などを後世に伝え残していくため、小・中学校と連携しながら開催していきたい。</p> <p>文化財啓発事業については、6回の実施となり目標値には至らなかった。香南市文化財に関し市民に向けて、遺跡発掘調査説明会、夏休み文化財教室、文化財講座などを積極的に展開し、更に体験活動や周知を行っていく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>B</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>市美術展覧会を開催し、例年並みの入場者数であったが、減少傾向である。</p> <p>文化協会の支援事業や公民館自主事業は概ね計画通りできている。</p> <p>郷土の歴史・文化遺産の保存と継承として、文化財教室や文化財講座など企画している。小・中学校への啓発及び地域への文化活動の啓発は予定していた回数には至らず例年より少ない実績となっている。</p>

施策大綱名	第5章 教育文化
基本施策名	26. 生涯にわたり親しみ高めあうスポーツの振興

①施策の基本目標

多くの市民がスポーツに親しめるよう様々なジャンルのスポーツを推進し、子どもから高齢者まで各年代に応じた体力の増進を図り、健康で活力に満ちた長寿社会をめざします。
また、スポーツを通じた青少年の健全育成や、地域の人たちの交流を促進し、活力ある地域社会をめざします。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
108	市長杯等の参加者数	人	目標		500	520	550	570	800	800	↗	
			実績	480	501	490	769	873				
108	市民ウォーキング大会参加者数	人	目標		82	90	100	150	200	290	↘	
			実績	80	82	49	163	72				
109	体育施設の障害者用トイレ設置数(学校開放施設含む)	箇所(累)	目標		8	9	10	13	15	17	↘	
			実績	7	7	8	9	9				
110	スポーツ少年団認定指導員資格取得者数	人(累)	目標		66	66	66	68	75	78	↗	
			実績	64	71	73	79	81				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
108	スポーツ教室開催数(延)	回	目標		180	170	170	170	170	170	↗	
			実績	179	613	431	484	462				
109	ウォーキングコースの設定数	箇所	目標		6	10	10	10	10	10	→	
			実績	4	6	10	10	10				

④128の施策ごとの「成果と課題」

108 生涯スポーツ・競技スポーツの推進	<p>各種スポーツ大会として、市長杯など、バドミントン、ヨット、ソフトバレーボール、パークゴルフ、ラージボール卓球、ベタンク、ゴルフ、テニスなど多岐にわたる種目を行っており、参加者は目標570人に対し、873人の参加があった。運営者や競技者の高齢化により大会の維持が難しくなっている競技種目もある。また、参加者数は年度により変動があるが、競技人口はいるので周知徹底し参加を促していく必要がある。</p> <p>ウォーキングの楽しさを広め、健康増進の意識を高めるために、10月19日・20日にウォーキング大会(土佐よさこいツデーウォーク)を開催し、72人の参加者があった。また、3月に開催を予定していたウォーキング大会は新型コロナウイルス感染防止対策として開催を中止とした。</p> <p>こうなんスポーツクラブへ委託しているスポーツ教室は、毎年要望等を受け変更しており、令和元年度は延462回開催した。</p>
109 スポーツ環境の充実	<p>生涯学習施設のバリアフリー化に努めているが、目標には至らなかった。施設によっては利用者が少なかったり、既存トイレ内でスペースが確保できないなどの現状があり、すべての社会体育施設に障害者用トイレを整備するのは難しい。また、学校開放施設における利用ニーズは少なく費用対効果や施設構造上整備は難しい。</p> <p>ウォーキングコースは生涯学習課と健康対策課が連携し、平成29年度から合計10コースを設定している。コースを活用したウォーキング大会等の事業を実施し、コースマップなどの啓発を行っている。</p>
110 スポーツ指導者の育成・人材活用	<p>スポーツ少年団認定指導員資格を新たに2名が取得し、延べ81人となった。今後も、各団体等へ講習会の周知を行い、資格所得を促していく。</p> <p>また、スポーツ推進員が地域の運動会や駅伝大会に核として協力でき、地域で活躍できる体制が図られている。各団体に2名以上のスポーツ少年団認定指導員が必要で、その確保とあわせ、団員数が多い団体へは更に手厚く指導できる体制を構築していくため、認定員の資格取得を今後も促していく必要がある。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>A</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>各種教室や大会は、例年どおり実施でき、目標以上の参加者数であった。しかし、運営者や競技者の高齢化により大会の維持が難しくなっている競技種目もある。また、参加者数は年度により変動があるが、競技人口はいるので周知徹底し参加を促していく必要がある。</p> <p>スポーツ指導者の育成については、スポーツ少年団認定指導員資格を新たに2名が取得し、延べ81人となり目標以上となった。</p>

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	27. 災害に強いまちづくりの推進

①施策の基本目標

自然災害による被害を最小限にとどめるため、国や高知県に対し海岸や河川の適切な管理と整備の推進を求めるほか、避難高台の整備や急傾斜地の土砂災害防止対策、山間部の孤立対策を進めます。
また、地震に対する対策として、公共施設やライフラインの耐震化を進めるとともに、各家庭における対策の促進を図ります。

②基本施策の「まちづくり指標」_振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
111	避難タワーなどの高台整備箇所	基 (累)	目標		13	18	18	19	21	23	→	
			実績	12	13	17	18	19				
112	防災訓練(土砂災害)の実施	回	目標		未実施	初実施 ₁	1	1	1	定期実施	→	
			実績	未実施	初実施 ₁	1	1	1				
113	住宅耐震改修件数【再掲】	棟	目標		110	110	120	120	60	60	↘	
			実績	100	70	89	68	57				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
111	津波避難路の整備箇所	箇所 (累)	目標		16	18	19	20	21	24	→	
			実績	15	19	19	19	20				
112	国・県への河川整備要望行動【再掲】	回	目標		3	3	3	3	3	3	↗	
			実績	3	3	3	4	4				
113	住宅耐震診断件数【再掲】	件	目標		120	120	120	120	60	60	↘	
			実績	113	127	94	83	63				
113	家具転倒防止器具等購入費補助金申請件数	件	目標		50	50	50	50			↘	
			実績	13	61	27	14	11				

④128の施策ごとの「成果と課題」

111 津波・高潮の被害軽減対策	市民が津波から迅速・適確に避難できるよう、避難タワーや避難路の整備を進めている。「命を守る対策」の喫緊の課題として取り組んでいる津波避難タワーは、計画数23基の内、19基の整備が完了し、概ね計画どおり進んでいる。また、津波避難路の整備については、目標通り20路線を整備することができた。津波避難タワーと避難路の整備を併せ、津波避難が困難な地区の解消に向けた取組を加速していく。
112 水害・土砂災害予防対策	近年、集中豪雨(ゲリラ豪雨)による水害や、土砂災害も頻繁に発生するようになり、平成27年度までは未実施だった土砂災害の防災訓練を平成29年度から実施している。令和元年度も計画通り実施できた。今後、定期的な実施はもちろんのこと、水防資機材の備蓄強化にも努めていく。また、堤防の整備・かさ上げや強靱化、河床の浚渫などの河川整備の要望行動を国・県に継続的に行い目標3回に対し、4回行い、今後も継続して要望していく。
113 地振動に強いまちづくり	住宅耐震診断の費用を補助し、個人住宅の耐震化の促進を図った。木造住宅は自己負担3千円(診断調査手数料)で、非木造住宅は3万円を補助している。木造耐震診断は63件の利用があったが平成28年度より減少傾向であり、制度の更なる周知が課題となっている。また、住宅耐震改修(工事)は57棟の利用があったが、耐震診断同様に目標値を下回っている。両制度の周知はもちろんのこと、耐震診断だけで終わらず耐震改修に繋げていくことと住宅耐震化の重要性を広報や自主防災組織連絡会、その他イベント等を通じて啓発していく。あわせて、家庭での家具・棚家電の固定など、生活空間の揺れ対策として「家具転倒防止器具等購入費補助金」を支給しており、こちらは11件の実績があった。耐震診断および家具転倒防止については年々減少傾向にあり、制度の更なる周知が課題となっている。住宅耐震化の重要性を広報や自主防災組織連絡会、その他イベント等を通じて啓発していく。
114 孤立化防止対策の推進	孤立化防止の施策について、孤立のおそれのある集落のう回路として連絡線形となる道路網の整備やヘリポートの整備、情報通信網などの整備に努める必要があるが、具体的な整備計画には至っていない。
115 ライフラインの安全対策の強化	災害時に、ライフライン(水道・下水道・電力・市営バス・民間のインフラ整備など)が寸断されることがないよう、また、被害が生じても早急に復旧できるよう、安全対策を強化しないといけないが、具体的な整備計画には至っていない。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
C	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p> <p>避難タワーや避難道整備についても、市の重点施策に位置付けており、計画どおりに事業は実施できている。耐震診断および家具転倒防止については年々減少傾向にあり、制度の更なる周知が課題となっている。住宅耐震化の重要性を広報や自主防災組織連絡会、その他イベント等を通じて啓発していく。</p>

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	28. 地域防災力の育成

①施策の基本目標

近年発生した大震災や土砂災害、河川の氾濫など、災害の教訓をふまえ、広く防災知識の普及に努めるとともに、地域自主防災組織の設立促進と組織力の向上を図ります。
また、災害発生時の要配慮者対応を強化し、関係機関や地域との連携に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
116	香南市業務継続計画の実践訓練	回	目標		未実施	未実施	1	0	1	定期実施	↗	
			実績	未実施	初実施 2	2	2	3				
117	自主防災組織の結成率	% (累)	目標		91.0	94.0	97.0	100.0	100.0	100.0	↘	
			実績	89.2	89.0	90.6	89.7	89.5				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
116	職員に対する防災研修回数	回	目標		2	2	4	4	6	6	↗	
			実績	1	2	2	3	5				
116	児童・生徒に対する防災教育回数	回/校	目標		5	5	5	5	5	5	→	
			実績	5	5	5	5	5				
116	市民に対する防災研修回数	回	目標		未実施	未実施	2	2	3	3	↗	
			実績	未実施	20	25	25	35				
117	リーダー育成研修の参加組織数	組織	目標		35	41	47	53	54	55	↘	
			実績	13	7	10	18	15				
118	「避難行動要支援者名簿」の作成及び更新	-	目標		随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	→	
			実績	作成済	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新				
118	避難支援プラン(個別計画)作成件数	件 (累)	目標		2	20	50	80	80	80	↘	
			実績	着手	1	2	3	12				
118	園児の避難訓練実施回数	回/園	目標		12	12	12	12	12	12	→	
			実績	12	12	12	12	12				
118	児童・生徒の避難訓練実施回数	回/校	目標		3	3	3	3	3	3	→	
			実績	3	3	3	3	3				
119	社会福祉協議会との連絡会	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1				

④128の施策ごとの「成果と課題」

116 防災知識の普及	<p>香南市業務継続計画の実施訓練を目標は1回としていたが、昨年度以上の3回実施できた。目標は隔年実施としているが、今後も継続して毎年実施していく。</p> <p>児童・生徒に対する防災教育は予定通り実施し、職員に対する防災訓練については目標を上回る5回の実施となった。今後も、災害の教訓を踏まえた具体的で分かりやすい防災知識の教育を進めていく。</p> <p>市民に対する防災研修も開催当初から計画を大きく上回る回数を実施しており、令和元年度も35回実施することができた。</p>
117 自主防災体制の整備	<p>個人と自主防災組織など市内の各種団体、事業所、行政が明確に役割分担しながら、日頃からの災害予防を進めることが重要である。</p> <p>その中でも、自主防災組織の育成は特に重要であり、令和元年度末の市内の自主防災組織の結成率は89.5%(13,445世帯(自主防加入世帯)/15,022世帯(全世帯数))と目標には至っていない。組織結成に向けて伸び悩んでいるが、引き続き、結成率100%を目指して取り組んでいく。</p> <p>また、防災リーダーの育成も重要であることから、防災リーダー育成を目的とした研修会への参加を自主防災組織を中心に呼びかけている。平成30年度からは、れんげいこうち広域都市圏の取組も始まり、高知市と連携した防災リーダーの育成研修会も開催され、研修機会も増加したことから令和元年度は15組織が参加を行ったが目標には届いていない。</p>

118 災害時要配慮者の支援対策
<p>避難行動要支援者名簿の作成については、平成28年度末に地域福祉支援システムを導入し、作成済である。それ以降は随時更新できており、今後は名簿の運用についてプライバシーに細心の配慮を図りながら、市職員、消防団員、民生委員、自主防災組織員などとの連携強化に努める。</p> <p>また、その名簿一人ひとりの情報伝達、救助・避難誘導の方法を具体的に示した「個別避難支援プラン」は令和元年度末で12件の作成状況であるが、対象者からの同意を得ること、プラン作成に向け一層取り組んでいく。令和元年度は赤岡地区の一部をモデル地区とし、「地域で避難支援を考える会」を開催した。地域への周知や協力要請を行い、対象者への聞き取り訪問・同意を得て9件を作成した。</p> <p>園児・児童・生徒の避難訓練は予定通り実施できた。今後も地域の実情に合った訓練を計画し実施していく。</p>
119 ボランティアの環境整備
<p>災害時は、市社会福祉協議会が「香南市災害ボランティアセンター」を開設し、ボランティアコーディネーターとして、派遣要請やボランティアの受付、業務の割り振りなどを行うこととなる。それら活動が円滑に行われるよう、関係者で情報を共有するための連絡会を行った。今後も引き続き開催していく。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見
B	<p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでていない</p>	<p>香南市業務継続計画の実践訓練は、平成28年度の開始時より、令和元年度は3回実施することができている。</p> <p>自主防災組織の結成については、結成に向けた声掛けや説明は行っているが、目標達成には至っていない。引き続き、自治会の結成と連携して地域と協議を行う。また、すでに結成されている組織の活動や啓発も重要であり、それぞれの状況等を把握し、より活動が活性化するように努める。</p> <p>避難行動要支援者対策として、対象者からの同意を得て、避難支援プラン(個別計画)の作成に一層力を入れて取り組む。</p>

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	29. 防災体制の強化

①施策の基本目標

大規模災害の発生に対応するため、市民や職員が必要な活動を行える体制の整備、迅速かつ的確な消防体制・医療救護体制の整備、円滑で的確な救援物資の輸送体制の整備を進めます。
また、災害時の情報伝達を強化するため、多様な通信手段の確保に努めます。

②基本施策の「まちづくり指標」 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
120	香南市総合防災訓練参加者数	人	目標		6,400	6,700	7,100	7,500	7,500	7,500	↘	
			実績	4,844	4,304	3,996	4,394	4,195				
121	防災行政無線(移動系)整備	-	目標		アナログ	アナログ	整備開始	整備中	整備中	デジタル化	→	
			実績	アナログ	アナログ	アナログ	実証実験中	整備中				
124	備蓄倉庫の整備 (浸水区域内)	棟 (累)	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1	1	1		
124	備蓄倉庫の整備 (浸水区域外)	棟 (累)	目標		1	2	2	3	3	3	↘	
			実績	0	0	1	1	1				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
120	防災協定の締結数	件	目標		96	100	104	108	110	110	↗	
			実績	92	96	104	105	113				
121	香南市配信メールの登録者数	人 (累)	目標		1,300	1,400	1,500	1,700	1,900	2,100	↘	
			実績	1,256	1,176	1,132	1,195	1,261				
122	火災予防の啓発回数	回	目標		120	120	120	120	220	250	↗	
			実績	116	102	120	120	200				
122	消防水利の耐震箇所数	箇所	目標		25	26	28	28	29	29	→	
			実績	23	25	26	28	28				
123	医療救護訓練の実施	回	目標		1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1				

④128の施策ごとの「成果と課題」

120 応急活動体制の整備	<p>災害発生後の応急活動を迅速・適確に行うために、県下一斉の避難訓練に合わせ、11月3日に香南市総合防災訓練を赤岡小学校を主会場に開催した。衛星携帯電話を使用した情報収集訓練や消防防災航空隊のヘリコプターでの被害状況訓練調査、赤岡町少年防災クラブ中学部と連携した市消防団赤部分団による倒壊家屋からの救出訓練及び自治会・自主防災組織による訓練を実施した。市の広報や自主防災組織を通じて訓練への参加を呼びかけてきたが、参加者は4,195人で、目標人数を大きく下回っている。 いざというときに的確で迅速な判断に基づき行動することは困難であり、訓練を通して状況に応じた判断力や行動力を養っていくことが重要となるので、ひとりでも多くの市民に防災訓練へ参加してもらえるよう引き続き取り組んでいく。 防災協定の締結数については、目標値を上回っている。引き続き災害時に備え他の行政機関や医療関係機関、民間事業者と災害時応援協定を締結し、災害時の連携体制や役割を決め、平常時においてもその協定を活用した事業、訓練等を実施する。</p>
121 情報通信システムの強化	<p>防災情報通信管理システムを構築する中で、防災行政無線(移動系)の整備を進めており、令和元年度は令和3年度のデジタル化に向け整備中であり、進捗状況は予定通りである。 携帯電話・スマートフォンは、災害時の情報通信手段として大きな役割が期待される。本市では、携帯電話会社と連携しながら、緊急地震速報などの気象情報や地域の災害情報を即時配信する「香南市配信メール」を実施しており、広報や小中学校を通じて利用促進を図っている。登録者数は1,261人と目標には至っていない。今後も登録者数の増加に向けて、継続して取り組んでいく。</p>
122 火災予防対策の推進	<p>消防本部では、市内の事業所や学校等で開催されている避難・通報・消火訓練等に立ち会い、また、各事業所及び危険物施設へ立入査察を実施し、必要に応じて助言や指導を行っている。今後も、訓練及び立入査察等を行い、火災の予防に努める。 消防水利の耐震化については、28箇所を整備されており、概ね目標どおりである。また市内には、約900強の消火栓と約200の防火水槽があるが、耐震性が充分でない防火水槽もあり、災害時には利用できなくなる恐れもあるので、順次耐震化に努めていく。</p>
123 災害時医療救護体制の整備	<p>災害発生時には、72時間以内に災害時医療救護体制を立ち上げる必要がある。 令和元年度は、医師会や看護協会、薬剤師会など関係機関や地区の自主防災組織も含めた医療救護訓練を実施した。災害時に必要となる通信機器の訓練も併せて行い救護所の体制づくりを進めている。今後も外部機関を含めた訓練は3年に1回継続して行う予定。</p>

124 緊急輸送体制の整備

災害時には、大量の応援物資を保管・仕分けする拠点が必要であり、津波や水害による避難も想定しながら、整備する必要がある。
 すでに、浸水区域内には1箇所(吉川町)に整備を行っており、今後は備蓄品の整備に努めていく。また、平成29年度には浸水区域外(こうなん学校給食センター隣)に1箇所の整備を行ったが、新たな整備には至っていない。引き続き、浸水区域外での整備を進めるとともに、地域物資拠点の確保と機能充実に努める。

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果		評価所見
B	《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない	香南市総合防災訓練への参加者は目標に至っていない。日常からの訓練が、災害時の行動につながるのので、ソフト面の強化もあわせて、訓練への参加を呼びかけや周知の方法について検討して必要がある。 備蓄倉庫については、新たな整備には至っていないが、耐震性防火水槽、情報伝達の整備などは順調に整備できている。また、火災予防の訓練も目標以上に実施でき、防災体制の強化は図れている。

施策大綱名	第6章 防災
基本施策名	30. 市民生活の確保

①施策の基本目標

南海トラフ地震など、大規模災害時の避難対策として、避難所の整理と運営体制の確立を進めます。また、避難生活に必要な備蓄品については、公的備蓄の早期整備と個人備蓄の啓発に努めます。廃棄物の処理については、集積場所の確保や、民間処理事業者との協力体制の確立を進めます。

②基本施策の「まちづくり指標」_ 振興計画基本計画掲載指標

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
125	避難所運営マニュアル作成	箇所 (累)	目標	/	1	7	13	19	25	27	↗	
			実績	0	2	11	17	22				
126	食料・生活必需品の備蓄率 (L2想定避難者12,000人分)	% (累)	目標	/	58.0	72.0	83.0	85.0	93.0	100.0	↗	
			実績	61.0	70.0	83.3	86.0	89.0				

③基本施策を構成するその他の「まちづくり指標」

体系No.	まちづくり指標	単位	数値	策定時 H27	H28	H29	H30	R元	R2	目標年度 R3	目標との 比較	達成状況 (R3に評価)
125	避難タワーなどの高台整備箇所【再掲】	基 (累)	目標	/	13	18	18	19	21	23	→	
			実績	12	13	17	18	19				
125	津波避難路の整備箇所【再掲】	箇所 (累)	目標	/	16	18	19	20	21	24	→	
			実績	15	19	19	19	20				
127	中央東福祉保健所との連携協議回数	回	目標	/	1	1	1	1	1	1	→	
			実績	1	1	1	1	1				
128	応急期機能配置計画の策定	-	目標	/	準備	策定	策定	策定	策定	策定	→	
			実績	未策定	策定	策定	策定	策定	策定	関係機関 手続完了		
128	災害廃棄物処理計画の策定	-	目標	/	未策定	策定	策定	策定	策定	策定	→	
			実績	未策定	未策定	策定	策定	策定	策定	策定		

④128の施策ごとの「成果と課題」

125 避難対策の推進	<p>災害が起こってから避難所について考えているのは、円滑に開設や運営を行うことは困難であり、避難所マニュアルの作成は避難所を安定的に運営するために大変重要である。令和元年度は富家防災コミュニティセンターをはじめ、5避難所(延22避難所)の避難所マニュアルを作成した。今後も、マニュアルの整備及びマニュアルを活用した訓練の実施と継続的な見直しを行っていく必要がある。</p> <p>市民が津波から迅速・適確に避難できるよう、避難タワーや避難路の整備を進めている。「命を守る対策」の喫緊の課題として取り組んでいる津波避難タワーは、計画数23基の内、19基の整備が完了し、概ね計画どおり進んでいる。また、津波避難路の整備については、目標通り20路線の整備を整備することができた。津波避難タワーと避難路の整備を併せ、津波避難が困難な地区の解消に向けた取組を加速していく。</p>
126 食料・飲料水・生活必需品の確保	<p>「最大クラスの地震・津波」(L2)を想定し、12,000人の避難者の食料・生活必需品の備蓄に努めている。</p> <p>令和元年度においても目標を上回っており、備蓄率は89.0%となっている。今後も計画的に非常食・飲料水・毛布・生理用品・おむつ・仮設トイレなどの備蓄を進めていく。</p>
127 保健衛生・防疫体制の確保	<p>伝染病や食中毒等の発生予防と発生後に速やかに対応するためには、中央東福祉保健所との連携が重要であり、1回ではあるが令和元年度も連携協議の場を持つことができた。今後も、継続して協議の場を持ち、体制づくりを行っていく。</p>
128 ごみ・がれき、し尿の処理体制の確保	<p>平成28年度に、地震発生時から応急期にかけて必要となる用地や施設などの機能配置を定めるための応急期機能配置計画の策定を行った。計画は、南海トラフ地震発災後、住民の命を守り、助かった命をつなぐため、救助・救出や応急対応活動等の体制を早期に確立することを目的とし、災害発生時に必要となる各機能をどのように配置するのか検討を行ったもので、今後は、その計画に基づき、施設の整備等に努めていく必要がある。</p> <p>また、平成29年度には、災害廃棄物に関する基本的な考え方、処理方法や処理手順などを定めた、災害廃棄物処理計画の策定を行った。今後は、計画どおり処理を行える体制づくりと組織強化を図っていく必要がある。</p>

⑤基本施策の「総合的評価」

評価結果	評価所見
<p>A</p> <p>《基準》基本施策の成果 (A) 充分成果がでている (B) ある程度成果がでている (C) あまり成果がでない</p>	<p>避難所運営マニュアルや災害廃棄物処理計画など各種計画は予定どおり策定できている。今後、計画にもとづき取組を進めていく。</p> <p>市民生活の確保に必要な不可欠である、食料・生活必需品の備蓄率も目標以上であり、今後も計画的に非常食・飲料水・毛布・生理用品・おむつ・仮設トイレなどの備蓄を進めていく。</p>